事業報告概要書（公表版）

公表様式

1 基本情報

施設名又はグループ名	指定管理者名及び団体概要
防災公園グループ	（指定管理者名）公益財団法人　東京都公園協会 （団体の概要） 都市緑化の推進、公園や水辺を通じた安らぎとゆとりの提供を目的として設立され、公益目的事業（指定管理者事業を含む）及び収益事業を行う。
指定期間	
H28.4.1 ～ R8.3.31（10年間）	

2 施設名

東白鬚公園
木場公園
砧公園
駒沢オリンピック公園
代々木公園
善福寺川緑地
和田堀公園
汐入公園
城北中央公園
光が丘公園
舎人公園
水元公園
篠崎公園
葛西臨海公園
武蔵野中央公園
府中の森公園
武蔵野の森公園
小金井公園
東村山中央公園
東大和南公園
秋留台公園

3 収支（単位：千円）

項目		金額
収入　計		3,787,188
内訳	指定管理料	3,787,188
内訳	利用料金	0
支出　計		3,759,103
収支差		28,085

公園別支出額

東白鬚公園：77,670	城北中央公園：152,115	武蔵野の森公園：114,778
木場公園：185,969	光が丘公園：292,236	小金井公園：317,974
砧公園：170,729	舎人公園：316,119	東村山中央公園：72,468
駒沢オリンピック公園：188,005	水元公園：395,266	東大和南公園：67,855
代々木公園：328,305	篠崎公園：147,235	秋留台公園：74,367
善福寺川緑地：145,340	葛西臨海公園：338,063	
和田堀公園：111,426	武蔵野中央公園：79,922	
汐入公園：73,714	府中の森公園：109,547	

4 管理運営の概要

基本理念：人々の命を守る「首都東京のシンボルパーク」

【取組方針1　防災対応力の強化】

○救出救助活動拠点の機能発揮のため、施設運用・勤務時間内・早朝・夜間と年4回の全体訓練実施により職員の防災対応力を向上させました。

○コロナ禍で実施できなかった地域連携訓練等に代え、公園内の防災設備の案内や、災害時の防災公園の役割を説明した動画を作成。DVDにまとめ、周辺自治会、学校等の関係団体350箇所に配布し、地域防災の自助・共助力の向上に寄与しました。

○大人数が短い時間に集まる今までのイベントに代わり、公園協会独自アプリ（Tokyo Parks Play）を活用し、ある一定期間にそれぞれが公園を巡って楽しんでもらうスタンプラリーやビンゴタイプのプログラムを提供しました（防災公園G全体/葛西臨海公園/東白鬚公園/汐入公園/武蔵野中央公園）。

○新たに設置された非常用発電設備を円滑に運営できるよう、各設備に合わせたマニュアルを作成・配備し、負荷をつないだ運用研修を行いました。

○進行する風水害に対して、篠崎公園をモデルケースに、職員の計画的な避難計画やタイムラインを作成し、同様の浸水想定公園に横展開しました。

○葛西臨海公園では、津波フラッグの活用や東京2020大会を見据えた車いす利用者の避難誘導等を記載した新たな津波対応マニュアルを策定しました。

○東京都と区市を交えて締結を進めている防災協定、確認書の締結において、風水害を含めた災害対応も踏まえた協議を開始しました。

【取組方針2　東京のシンボルパークとしての魅力向上】

○木場、代々木、武蔵野の森、葛西臨海公園では共同作業でパークビュースポットの景観向上を図り、シンボルパークに相応しい風格づくりを行いました。

【取組方針3　公園の魅力を伝え、利用促進を図る情報発信の強化】

○ホームページ、ツイッター等のSNSや公園アプリを活用して、イベント情報や草花の開花情報等を積極的に発信し、利用促進を図りました。

○情報誌や区市報への掲載、バスタ新宿におけるデジタルサイネージの活用等、様々な広報媒体を活用した情報発信を行いました。

○公園連絡協議会等を通じて地元町会との連携を強化し、各町会への配布等、近隣住民へイベント情報等を積極的に発信しました。

【取組方針4　安全・安心で快適に利用できる公園の提供】

○緊急事態宣言下では都と連携して感染拡大防止に努め、特に桜花期には指定施設封鎖や巡回強化を実施し、来園者への注意喚起を図りました。

○樹木の日常点検による状況把握や枯損木等の処理により、落枝・倒木による利用者への事故を未然に防止し、安全・安心の確保に努めました。

○事件・事故については東京都に速やかに報告し、復旧等早期解決に努めました。また、強風や大雨被害の復旧を迅速に行いました。

○要望・苦情については早期解決に努めるとともに、データベース化して情報を共有し、利用者サービスの改善につなげました。

○ホームレスへの日常的な自立支援・指導を都と連携して積極的に行いました。

【取組方針5　生物多様性に配慮した維持管理】

○都の和田堀池かいぼり事業の進捗に合わせた維持管理を実施するとともに、コウホネ再生プロジェクトを新たに立ち上げ、近隣小学校や郷土博物館と連携しながら生物多様性保全の普及・啓発につなげました。

○23区内で唯一ヒクイナの繁殖確認があった葛西臨海公園では、大学やNPOと連携した委員会を立ち上げ、生態調査・生息環境の整備を行いました。

○東村山中央公園では約25種の蝶が確認されるなど、バタフライガーデンの取組を進めました。また、地元小学校へ出張授業を行い、公園の取組を説明しながら、地域とともに生物多様性のフィールドを育むことができました。

【取組方針6　様々な主体とのパートナーシップの推進】

○木場公園では、公園内外で活動する団体やNPO、町会、保育園等と連携し、エリアマネジメントによる公園を活用した魅力ある地域づくりに取り組みました。

○代々木公園では、子供たちの可能性を地域や社会に届ける取組を推進するため、「公園×子供×教育」をテーマにパークミーティングを立ち上げ、第一弾として「花壇」をテーマに協働事業を推進しました。

○小金井公園では、観光振興団体やNPO等が参画する意見交換会を立ち上げ、公園資源や地域資源を活かす取組について積極的に議論する場を設けました。会メンバーとの連携により、「小金井公園と街をつなぐ桜めぐりマップ」が完成し、公園と地域パートナーとの関係性を高めることができました。

○公園連絡協議会等を通じて、ボランティアや近隣町会等と良好な関係を築き、防災訓練やイベント協力など、地域との連携強化を図りました。

○企業CSR活動や地域の学校の職場体験活動を積極的に受け入れ、清掃活動等により園内美化や作業の効率化を図りました。

5 管理状況（維持管理）

【体制】

○グループ公園を3エリアに分け、基幹公園（代々木・水元・小金井）に経験歴約20年の指導力と技術力のあるベテラン維持職員を複数人配置し、各公園の維持職員への技術・作業内容の指導、助言等を行い、維持職員の技能向上、公園の維持管理レベルの底上げを図りました。

【シンボルパークとしてふさわしい景観の向上】

○各公園に設定したパークビュースポットの景観向上として、ブロック内共同作業により、代々木公園雑木林の樹木剪定、木場公園中地区の刈り込み等を実施したほか、葛西臨海公園ではラストマイルに隣接した芦ヶ池の流れを復元。東京2020大会競技会場となっている武蔵野の森公園「ふるさとの丘」では、樹木の下枝整理や株物の切り戻し等、景観向上や見通しの確保を図りました。

【安全・安心の確保】

○緊急事態宣言下では都の指示に基づきスポーツ施設、遊具利用中止等の措置を迅速に対応したほか、飛沫防止シートや消毒液の設置、更衣室の定期的な換気等の衛生管理を徹底し、感染症対策を適切に行いました。代々木公園では、桜花期対策としてA地区の封鎖を迅速に対応したほか、園内の保育施設の利用に際して門扉の開閉や入口を2ヶ所に増やす等の対策により、弊害が生じないよう配慮しました。葛西臨海公園では、中央園路の片側通行の即時実施やマスコミ対応を通じた都の感染症対策のPR等を行いました。屋内施設である武蔵野の森公園「のびのび親子館」では、コロナ禍での運用方法を検討・実施し、きめ細やかな消毒等を行い、未就学児も安心して遊べる環境を整えました。

○草刈業者と安全講習会を現場で実施するとともに、職員による安全作業状況の点検・指導を行い、全社的に職員によるチェック及び報告体制を強化しました。委託業者が通路に張ったロープで利用者が転倒する事故が木場公園で発生した際には、直ちに公園協会内で周知して全公園に注意喚起するとともに、当該業者には作業員の再教育や禁止事項を作業毎に掲示し、全員で確認する等再発防止策を徹底させました。

○篠崎、葛西臨海、善福寺川緑地、和田堀、舎人、水元公園ではプロポーザル方式により選定された維持管理業者の積極的な提案による、きめ細やかで質の高い維持管理を行いました。また、武蔵野中央、府中の森、武蔵野の森、小金井、東村山中央、東大和南、秋留台公園では、配管や電気系統図なども記載したトイレ管理台帳を作成し、不具合等があった際は、迅速に対応できるよう備えました。

○死角の解消や夏季の日陰の確保等、来園者の安全や利便性を考慮した維持管理を実施するとともに、段差解消や園路の拡幅等、車椅子利用者や高齢者に配慮した施設改良を行いました。また、遊具や樹木・トイレ・ベンチ・園路等を適切に点検・管理し、安全・安心を徹底しました。

○台風や大雨等気象災害時には、事前に集水桝や側溝等の清掃や危険個所の点検・補強、水防訓練等を行い、出水を防止しました。

○日常のKYミーティングの徹底、月1回のヒヤリハット事例を用いたKY訓練、各エリアにおける、ベテラン職員の講師による全維持職員を対象とした安全講習会の実施、ブロック内共同作業等OJTによる安全作業の指導、協会本社による安全パトロール等の実施等、本社、エリア、現場が一体となった対策を実施し、安全・安心の確保を図りました。

6 利用者アンケート結果

実施方法:

施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の応対
東白鬚公園	4.7	4.7	4.6	4.7	4.7
木場公園	4.5	4.6	4.0	4.5	4.4
砧公園	4.6	4.6	4.0	4.6	4.5
駒沢オリンピック公園	4.5	4.5	3.8	4.5	4.2
代々木公園	4.6	4.6	4.3	4.5	4.5
善福寺川緑地	4.7	4.7	4.2	4.5	4.6
和田堀公園	4.8	4.5	4.5	4.7	4.4
汐入公園	4.7	4.5	4.5	4.6	4.6
城北中央公園	4.7	4.7	4.5	4.7	4.6
光が丘公園	4.6	4.5	4.1	4.5	4.4
舎人公園	4.7	4.5	4.4	4.6	4.5
水元公園	4.8	4.8	4.5	4.8	4.8
篠崎公園	4.7	4.5	4.4	4.5	4.7
葛西臨海公園	4.8	4.9	4.7	4.9	4.9
武蔵野中央公園	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7
府中の森公園	4.7	4.8	4.5	4.8	4.9
武蔵野の森公園	4.7	4.7	4.8	4.9	4.9
小金井公園	4.8	4.7	4.2	4.6	4.6
東村山中央公園	4.7	4.7	4.5	4.6	4.7
東大和南公園	4.7	4.7	4.6	4.6	4.5
秋留台公園	4.8	4.7	4.7	4.8	4.6

7 入園者数の状況(単位:人)

施設名	当該年度	分析
東白鬚公園	182,385	新たに整備された防災トイレ等を使った訓練の実施や、新たな団体の訓練参加を実現し、地域の防災力を向上させました。
木場公園	1,384,993	コロナ禍に対応した新たなイベントや防災普及活動を実施しました。また、エリアマネジメントプロジェクトを立上げ、公園を核とした地域の魅力アップに取り組みました。
砧公園	2,319,443	利用者の声を反映したユニバーサル遊具の紹介冊子の作成や施設改良を行い、すべての子どもがいきいきと遊べる空間を地域と協働で創出しました。
駒沢オリンピック公園	1,547,769	「感謝」・「希望」・「つなぐ」をテーマに、駒沢ファンタジアを初めてオンラインイベントで開催し、コロナ過でも地域の活性化に寄与しました。
代々木公園	6,543,233	育つ環境、学びを守る環境、街に参加してもらうコミュニティ作り等、課題を地域と共有し「幼児教育」を取り入れた協働事業を推進しました。
善福寺川緑地	1,764,881	セミの羽化動画やセルフ観察ガイドシート等、新たな手法による観察会を実施し、コロナ過でも楽しめる子供向けコンテンツの充実を図りました。
和田堀公園	1,482,143	コウホネ再生プロジェクトにより生物多様性保全に積極的に取り組んだほか、バーベキュー広場のオンライン予約システムを導入し、利便性の向上を図りました。
汐入公園	1,840,955	ハーブ園のさらなる向上のため、保育園・幼稚園へのアンケートによりニーズを把握し、ハーブガーデンキッズエリアを新設しました。
城北中央公園	886,467	近隣教育施設等と連携した防災動画を制作・配信したほか、どんぐり工作キットの配布によりコロナ過でも楽しめるイベントを開催しました。
光が丘公園	3,070,665	コロナ過でも利用者の立場に立った公園の管理運営を実践したほか、マスコットキャラクターの制作により公園の新たな魅力を発信しました。
舎人公園	2,905,772	野鳥ボランティアの協力により、園内で見られる鳥を紹介するセルフガイドシートを作成・公開し、公園の新たな魅力を発信しました。
水元公園	2,553,638	水辺の生きもの館にボランティアの協力によりトンボクイズパネルを新設し、楽しみながら自然を学べる工夫により、前年同月比で来館者119%を達成しました。
篠崎公園	1,207,687	どんぐりなどの工作キットを配布し、参加者にTwitterでの完成品画像の発信を呼びかけ、参加者からの情報発信につなげました。
葛西臨海公園	1,948,788	都民協働によるヒクイナ保護活動や芦ヶ池の景観復元等により公園の魅力を一層高めたほか、都・区等と連携しラストマイルの円滑な運営に向けた準備を進めました。
武蔵野中央公園	850,993	樹林地の名前を利用者等と一緒に決めたほか、地域の方々の作品を展示する「ぱーくすぺーす」を設け、地域と共に公園の魅力向上を図りました。
府中の森公園	812,658	一人でも気軽に参加できるボランティアメニューを考案したほか、イベントの動画配信では関係者とも連携した配信で2,000 件を超える視聴がありました。
武蔵野の森公園	689,221	個人で楽しめるセルフガイドシートを用いたイベント実施や屋内施設のきめ細やかな感染防止対策で、コロナ禍でも安心して楽しんでいただける提案ができました。
小金井公園	2,192,756	コロナ禍での大型遊具利用調整、外出自粛期間中の一斉施設補修等に努めつつ、地域連携による桜マップ制作等新たな公園利用に資する取組を推進しました。
東村山中央公園	723,978	バタフライガーデンや樹林地管理を地元教育機関も巻き込みながら計画的に進め、生物多様性の取り組みを地域と一緒に育みました。
東大和南公園	1,315,103	継続した取組から、地域の声を受けコロナ禍での防災訓練を実施し、防災拠点としての公園を地域の方々に知ってもらうことができました。
秋留台公園	687,991	補植するバラを投票で決定するなど、来園者と一緒に園の魅力向上を図りました。クビアカツヤカミキリ発生時には関係各所と情報共有を図り、迅速かつ適切に対処しました。
合　計	36,911,519	

コロナ禍における地域防災の拡大･普及

【事業計画№3-②-1、3-④-6、9、12、28、31、47、48、49、52、53、№4-1- 1、協-1　評価区分 13、20、30】

①　新設防災施設のお披露目と防災訓練を近隣自治会と実施

昨年度末に都の工事により改修整備された防災施設のお披露目を兼ね、**墨田区防災課とサービスセンターが連携して、白鬚東アパート 8 自治会と防災訓練を実施**しました。新型コロナウイルス感染症対策を徹底して、密にならないようにしました。常設トイレの震災時の使用方法、マンホールトイレ・テントの組み立て方、防災井戸のしくみ、発電機・エンジンポンプの取り扱い等を解説し、訓練しました。各施設の運用マニュアルを見ながら積極的に質問する参加者も多く、防災意識を高めることができました。また、**地元の警察署、消防署・消防団、東京都住宅供給公社など、近隣の行政機関等からも参加があり、地域と一体となって訓練を実施**することができました。

〔向島警察署の標語も掲示〕

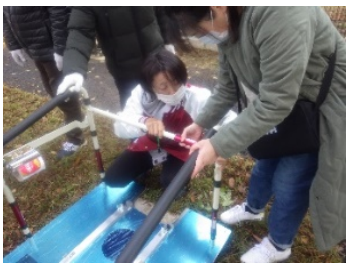
〔区職員によるマンホールトイレの説明〕

〔トイレの防災倉庫の説明〕

②　震災時にサービスセンターに協力してくれる団体を増やす

桜堤中学校地区の支援組織である青少年育成委員会と防災施設運用訓練を実施し、新たな団体との連携強化を図りました。訓練では、火起こしを小枝拾いから始めたり、マンホールトイレを防災倉庫から運んで設置したり、ワークショップを行う等、**実践的なスキルの身に付く訓練を行い、地域防災対応力の向上につなげました。**また、新型コロナウイルス感染症対策を徹底した２回目の訓練となり、**コロナ禍でも参加者が安心して訓練に参加できる環境づくりのノウハウを得ることができました。**

〔防災倉庫から防災トイレを運搬〕



〔防災トイレ組立訓練〕

〔かまどベンチにて火起こし訓練〕

③　防災アプリによる普及・啓発

汐入公園と合同開催する「みんなの防災まつり」は、イベントの代替として「防災おさんぽビンゴ」と題したアプリコンテンツを制作・配信しました。両公園の防災施設をビンゴクイズ形式で紹介し、

お子さんも楽しんで学べるものとし、来園者には「防災公園博士認定書」の授与やキャンペーン期間中は景品を配布しました。クイズは、地域の警察署・消防署・東京都住宅供給公社の協力を得て作成し、**汐入公園や地域と連携して防災施設の普及・啓発**を図りました。

←〔東京都公園協会公式アプリ TOKYO PARKS PLAY「防災おさんぽビンゴ」〕

イベント実施の新たな工夫

【事業計画№3-②-5、124、142、183、206、№4-イ-3、№4-自-1　評価区分 20、21、23】

昨年度まで集合型で実施していた「どんぐり工作」、「ミニクリスマスツリー工作」等の園内の発生材等を利用したイベントについては、材料キット等の配布型に変えて実施しました。新型コロナウイルス感染症対策として、密になる状況をつくらないための開催手法となりました。**作り方の動画を配信したり、参加者による作品の Twitter 投稿を推奨し、インプレッション数が 2 万回以上となり**、東白鬚公園の魅力が参加者から拡散されるなど、**多くの人の目に触れる機会が増え、公園の魅力を発信する新たな手法となりました。**

安全・安心・快適な環境づくり

【事業計画№3-③-33、55、59、60、63、66　評価区分 2、14】

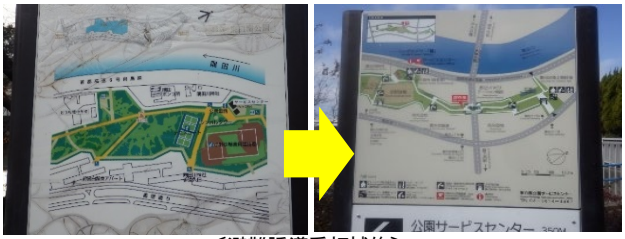
①　防災団地との境界となる外周部の大規模剪定

防災団地との境界線上にある、高木を大規模に剪定しました。これにより**外周部の見通しや明るさが向上すると共に、台風などの気象災害時に発生する恐れのある倒木を未然に防ぎ**、安全・安心な環境づくりを推進することができました。高木と並行して植栽されている低木についても、大規模に刈込みを行うことで見通しが改善され、歩行者等の安全や修景の向上を図ることができました。

②　避難誘導看板の更新

園内 15 か所の入口付近にある避難誘導看板の補修を行いました。今年度は**地図部分を都の整備工事後の現況に合わせて更新**しました。**施設名等の表記は英語も併記し、バリアフリー施設の表記については、更に中国語と韓国語も併記**し、多言語化にも配慮しました。

〔外周部の高木・低木樹木剪定〕



〔避難誘導看板補修〕

汐入公園と連携した作業による効率化

【事業計画№3-③-28　評価区分5】

東白鬚公園と汐入公園両公園の作業の効率化とマンパワーによるスケールメリットを生かした作業量の拡大を図るため、**一方の公園に集まって共同で実施する、「連携作業」を今年度から実施**しました。天候や緊急事態宣言による作業の中止など、計画通りに実施できないこともありましたが、両公園の維持管理担当職員が協力して樹木剪定や低木刈込み作業を実施し、公園の植栽管理を効率的に進めました。

〔境界部の樹木剪定〕→

公園を核とした子どもたちが自然と触れ合える地域づくり

【事業計画No.3-②-105 評価区分22、30】

公園内外で活動する団体やNPO、近隣保育園、町会など様々な17団体にご参加いただき、**公園の活用を通した魅力ある地域づくりのための「木場公園エリアマネジメントプロジェクト」をスタート**しました。

意見交換を重ね、こどもの遊び場や遊び方に関する意見・提案が多いことから、今年度は「子ども」を主なテーマとし、自然と触れ合いながら楽しく過ごせる地域の遊び場を紹介する**「子どもの遊び場マップ」と**、公園で泥遊びや花摘みなど自然と触れ合う遊びができる**「子どもの庭」の２つの取組みをプロジェクト参加団体とともに企画し、始動**しました。

「子どもの遊び場マップ」の作成では、地域の保護者へのWEBアンケートにより50件以上の情報が寄せられ、「子どもの庭」では、中地区の大規模花壇の一角を開放し子どもたちが泥だらけで遊べる空間を作りプロジェクト参加団体と試行するなど、地域の声を活かし、実践する関係性が構築されました。

これら取組は、今後、地域と共に発展・拡充するとともに、プロジェクトの活動を通して地域の輪を広げるきっかけを創出していきます。

【WEB 参加できない方にも対応するため、会議室と WEB のハイブリッドで開催。お子様連れ専用コーナーも設置】

【地域連携でつくる自然遊び「子どもの庭」】

新たな施設 KIBACO オープンに向けた環境整備

【事業計画No.3-③-28、58 評価区分26、32】

東京都の多面的活用事業により新たに「Park Community KIBACO」が新設されました。都と連携を取りながら工事の調整を行ったほか、店舗前の雑木林を剪定や株物を低く抑えたことによる景観の向上と周辺９カ所のベンチの更新により、**８月のオープンを明るくきれいな環境で迎えました。**

【直営で細やかな維持作業を実施】

コロナ禍だからこそ安心して緑に癒される

【事業計画№3-②-130、144 評価区分20、23】

外出しづらい状況だからこそ緑の癒しを途絶えてはいけないと、**コロナ禍が高まってきた令和2年4月から、年間を通して14回実施した緑に親しむプログラムでWEB回開催を導入**しました。

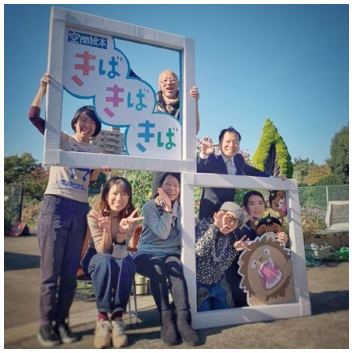
Zoomによるガーデニング教室や樹木観察会、Twitterによる植物園クイズラリー、ハンギングバスケット作り教室のYouTube配信など**バラエティに富んだプログラムを提供**して、ご自宅で楽しんだり、自分の好きな時間に公園に行って樹木を見たりと、**コロナ禍でも緑に親しんだり公園の新たな発見を楽しんでもらえました。**

【より気軽参加できるプラットフォームを提供】

地域と公園のポテンシャルを活かした新しい楽しみ方！

【事業計画№3-②-12、145 評価区分20、22】

新たなパートナーの地元イベントボランティアチーム“いいね森下”と協働し、「木場公園はなぜ“キバ”なのか？」をテーマにイラスト付き段ボール製フォトフレームでつくったフォトスポット（7カ所）で撮影し、後日写真を絵本調にしてお送りする**新たなイベント「空間絵本きばきばきば」を開催し好評を博しました。**



【参加者もスタッフも笑顔の取組み】

【幻想的な雰囲気に】

また、深川地域のアートプロジェクト『本と川と街』との連携により、最終日には夕刻から日没後の公園をアートで演出する「つながるライトバルーン」を実施し、公園に今までなかった新しい風景を作りました。

地元在住のイラストレーターの協力やイベントボランティアの活躍など**地域一体となって成功させたプログラム**です。また、**アートプロジェクトとの連携でフィールドが広がり公園のみならず地域の魅力アップに貢献**できました。

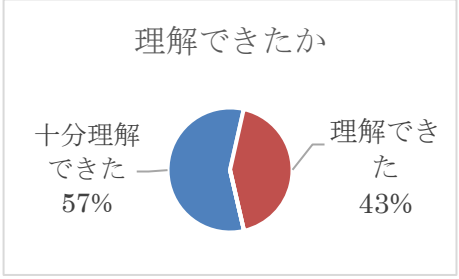
コロナ禍に対応した防災公園の普及と連携

【事業計画№様式3-④-49 評価区分13、30】

防災公園の役割を知ってもらうため、**コロナ感染症対応を踏まえ少人数・短時間で防災公園を知ってもらう「防災施設体験会」を新規で企画・実施**しました。

また、江東区の協力で白河地区29町会会議でPRし、**初めて防災施設を体験する常盤二丁目町会にご参加いただき今後の連携のきっかけづくりができました。**アンケートでは「理解できた」以上が100%、「人に勧める」が93%と積極的な声をいただける取組みとなりました。また、毎年、連携して防災訓練を実施している**木場五丁目町会と防災倉庫のカギの貸与**で合意し、**地域の防災対応力をさらに一歩進めました。**

【定期的にやるべきという声も多く聞かれました】



すべての子どもがいきいきと遊べる空間を地域協働でコーディネート　～みんなのひろば～

【事業計画№3-②-124　評価区分 22】

『みんなのひろば』を子ども達の新たな出会いと交流の場としてさらなる利用を図るため、**障がい者団体 TOKYO PLAY や砧幼稚園、きぬた村保育施設、砧地区プレーパーク団体等と協働し、多様性への理解を深めるための冊子制作に取組みました。**冊子制作にあたっては、みんなのひろば利用者へのモニタリングや近隣小学校にアンケートを行い、多様性への関心やみんなのひろばの認知度、利用実態等について事前に把握した上で掲載内容を決定、子どもから大人まで見やすく読みやすい優しいイラストのデザインにしました。**冊子完成時には、『お披露目会』を開催し、冊子配布とともに多様性についての紹介やひろば・遊具の説明を行い、みんなのひろばへの理解と利用促進につなげました。**

また、モニタリング結果でバラ園からの導線上にみんなのひろばの出入口を増やして欲しいとの声を多数いただいたことから、**設置場所等を地域の方と検討し、新たにバラ園側に出入口を増設し、利便性向上**にも取組みました。

地域に根差した協創の場のづくりと多様な文化の発信　～アート展～

【事業計画№3-②-145　評価区分 20】

世田谷美術館や長谷川町子美術館に加えて、**今回新たに、みんなのひろばをきっかけとして繋がりをもった、地域の障がい者団体 arTearTreaT と協働し、アート展を開催**しました。第 4 回こんな公園あったらいいな絵画コンクールの受賞作品と応募作品**全 95 作品を展示**しました。また、**今回初めて特別企画展として、障がいのある子ども達の絵画や子ども達がみんなのひろばで遊ぶ様子の動画を投影**しました。**展示会場は今回初めてパークミーティングのメンバーでもある世田谷美術館**にしたところ、約 400 人の方に鑑賞いただき、**地域と協働し積極的に文化を発信**しました。

幅広い世代とともに地域防災の輪を広げる　～動画の制作、配布、未来の連携拡充～

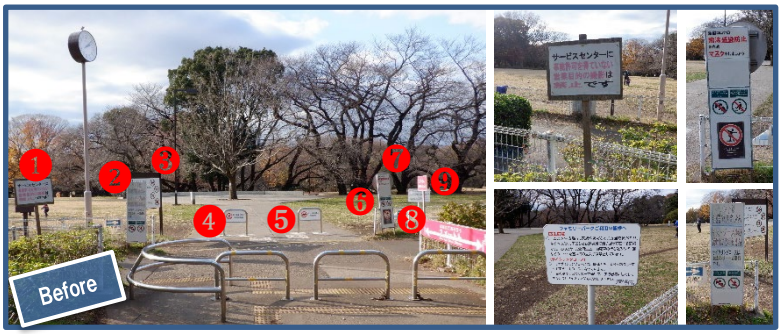
【事業計画No.3-④-50　　No.4-自-1　評価区分　23】

コロナ禍においても積極的に防災に関する普及啓発を図るため、**世田谷区砧まちづくりセンターや成城消防団５分団、日赤奉仕団砧分団、法人格砧町自治会、目黒星美学園中学高等学校、日本大学危機管理部の学生とともに防災動画を制作**しました。動画には、地域との園内防災施設運用訓練の様子や近隣の学生が手作りした災害用携帯トイレを紹介しました。今回制作した動画は、園内のデジタルサイネージで配信したほか、まだ**訓練実績がない清泉インターナショナルスクールや東京都市大学等に配布**しました。今回の動画をきっかけに、**新たに玉川町会や日本大学商学部、成城大学が地域訓練に参加いただけることとなり、地域防災の連携拡充につなげました**。

快適なファミリーパークの利用を目指した不適正利用への対応

【事業計画No.3-③-60、68 評価区分1、2】

砧公園の広大な芝生広場（ファミリーパーク）は、犬の連れ込みや自転車侵入が**禁止されていますが、早朝時の侵入や**周回**サイクリングコースの逆走問題について、利用者から改善を求める声が継続的に寄せられています**。そのため、これまで計画的継続的に**車止め、看板設置、路面標示、園路不陸等の補修を実施**しています。今年度は、アメニティ巡回中に利用者にどのようにしたらわかりやすく周知できるか重点的に聞き込みを行い、**特にファミリーパークへの出入口に乱立している注意喚起板を整理**し、**ユニバーサルデザインにも配慮できる新たな案内掲示板を整備**し明確でわかりやすく認識できるようにしました。また、職員による地道な自主警備や夏季早朝警備等、ハードとソフトの両面で**マナー啓発及び課題改善を図り、快適な公園利用を促進**しました。



～2020 東京大会機運醸成～利用者ニーズに応えた運動施設整備

【事業計画No.3-③-34、55 評価区分 2】

利用頻度が高いサッカー場は、グラウンド補修をしてから3年が経過し、不陸や雨天後のぬかるみにより利用に支障をきたしていたため、**年度当初の計画に基づいてフィールド全体の表層補修**を行いました。補修は、

測量による適正な勾配を設定しながら不陸整正を行うほか、**水壊・溶解しない粘土鉱物で形成された不溶土を表土と撹拌し、雨天に強いフィールドに仕上げ**ました。また、フィールドだけでなく、劣化が激しいダッグアウトの再塗装やベンチ補修を実施し、**サッカー場全体での快適な利用環境の提供**に努めました。

「感謝」・「希望」・「つなぐ」をテーマに初のオンラインイベントを開催

【事業計画№3-②-155、163、№4-自-7 評価区分 23】

コロナ禍のため開催が危ぶまれましたが、地域の方や昨年イベント出展していただいた方々から開催を望む多くの声をいただき、**初めてオンラインイベントで開催**しました。オンラインイベント開催にあたり、世田谷エリアを中心に活躍されるフラワー店や観葉植物店、ヨガ講師、和太鼓演奏グループ、駒沢大学、玉川警察署にご協力いただきました。

地域を巡るアプリクイズゲーム「ファンタジアラリー」や**地域の方と公園をつなぐ動画「キャンドルリレー」の配信**、出展者の方々の紹介をホームページやポスター、チラシで紹介する地域のお店と一体となった**「地域応援ＰＲ」**の３つのコンテンツを展開しました。アプリゲームは地域を巡るクイズだけでなく、動画を見て回答できるクイズも用意し、家でも楽しめるよう工夫しました。アプリゲームと動画再生数合わせて 475 人の方々に参加していただくことができました。**地域の活性化に寄与するとともに、次回開催への連携強化につなげました。**

地域の力をひとつに～地域連携訓練～

【事業計画№3-④-9、12、53、№4-協-1 評価区分 13】

近隣の**深沢地区町会連合会の 10 町会を対象に地域連携防災訓練を実施**しました。深沢まちづくりセンターや玉川消防署、玉川総合支所、スポーツ文化事業団にも協力いただきました。コロナ禍における震災時を想定し、火災被害や浸水被害の際に個人がとるべき具体的な行動や知識を身に着けていただきました。**発災時において、地域一帯で協力し力を発揮できるよう、自助力、共助力向上につとめました。**

今回の訓練の様子を地域連携防災訓練動画として DVD にまとめ、訓練実績がない学校等に配布しました。動画を視聴していただき、**地域の方々に防災への意識向上**を図りました。

【訓練連携団体】

世田谷区深沢まちづくりセンター、玉川消防署、深沢地区町会連合会（深友会、東深沢町会、交和会、深沢三友会、新町公民会、桜新町親和会、都営深沢アパート自治会、桜新町町会、駒沢三丁目町会、駒沢町会）、玉川総合支所地域振興課、東京都スポーツ文化事業団

感染症拡大防止への取組

【事業計画№3-②-168　評価区分 32】

近隣や利用者の方から緊急事態宣言中にランナーが増加し、マスク未着用に関する不安の声を多数いただいたため、感染症拡大防止として、職員が直接マスク着用や短時間利用を声がけするキャンペーンを季節ごとに実施しました。直接声かけすることにより、キャンペーン実施後は7～8割の方がマスク着用していただくことができました。**近隣や利用者の方の不安解消につながる効果的な取組**となりました。

東京 2020 大会向けた快適な園内環境整備

【事業計画№3-③-59、60　評価区分 3】

東京 2020 大会に向けて、**聖火リレーコースとなる園路やコース沿いの周辺施設の安全再点検と利用者へのサービス向上のために補修工事**を行いました。特に園内を一周するジョギングコースとサイクリングコースは、昼夜問わず多くの多くの利用者が使用し、路面標示が経年劣化により擦れて視認しづらい状況になっていました。**路面標示のリライト**や特に近年スピードを出す自転車が多く見受けられるため、**新しく「高速走行禁止」の路面標示**を加えるなど、**利用者の安全と快適な利用環境を確保**しました。

【聖火リレーコース沿い広場】

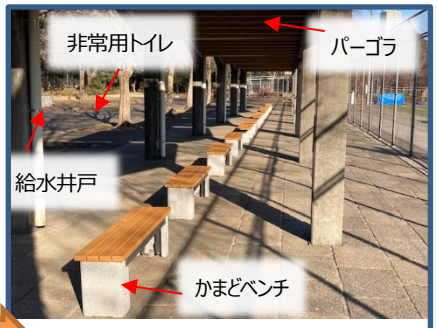
【路面標示】コース・距離表示など

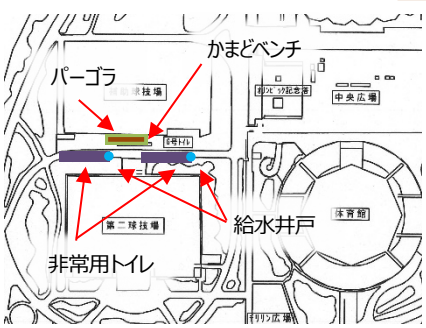
タイルの割れや破損部補修、安全確保と景観向上

防災力の強化！園内初のかまどベンチ導入

【事業計画№3-③-25、60　評価区分 2】

本公園には防災公園でありながら、これまでは防災かまどベンチの設置がありませんでした。今年度策定した**ベンチ更新 5 か年計画に沿って**、園内の劣化が進むベンチの更新の際に、防災の視点からパーゴラの下には**かまどベンチの導入**を図り、快適な利用とともに防災意識の向上に寄与しました。かまどベンチに隣接してある災害用マンホールトイレや給水ポンプにおいても、ポンプ取水口の補修やトイレ周りの除草を行い、**このエリア一帯の防災力強化**に繋げました。今後、防災訓練のメインエリアとしても活用してまいります。





コロナで変わった！新しい魅力発信と地域が求める公園への期待！

【事業計画 No3-②-148.151、 №4-イ-2、No4-協-2、No4-自-8、評価区分 20】

新型コロナウィルス感染症の影響により、集客を一番の目的としない運営方法を検討、アプリや YouTube を活用した「秋のバラフェスタ 2020」を開催しました。**実際のバラを見ながら楽しめるコンテンツ『バラパレットを作ろう』**（アプリ配信）（※バラの写真を撮り、色を組合せるコンテンツ）と、**自粛している方にも楽しめる『バラ巡りツアー』**（YouTube や Twitter で動画を配信）により、**多くの方にバラの魅力を伝える**ことができました。また、様々な自粛を強いられる中で子供達が遊べる場所や「何か」取組みを考えてほしいとの地域の声を聞くことが多くなりました。**地域の声を具現化し、子供達を取り巻く環境に変化を与え元気を取り戻す**ことを念頭に、自然に触れ体を動かすことができる「ツリークライミング」や「自然ふれあい教室」を実施しました。**地域の要望に応えることで、公園の存在意義を高め地域社会へ貢献しました。**

公園を舞台に子供たちの可能性を地域に届ける！テーマは「公園×子供×教育」

【事業計画 No3-②-105、No4-協-4、評価区分 22】

公園内のまちのこども園と運営会社に参加していただき、育つ環境、学びを守る環境、街に参加してもらうコミュニティ作りなど、**公園に求められていることを更に深く掘り下げるためのテーマ別パークミーティングを開催**しました。参加者からは、環境の整備や街に参加してもらうことの重要性、参加を公園がデザインすることや子供と一緒にリサーチするなど、有意義な意見交換をおこなうことができました。

また、**取組みの第一弾として幼児教育を取り入れた新規花壇プロジェクト（命がつながる花壇）を立ち上げ、「自主性と協調性を育む活動」、「創造性を育む環境作り」、「記録を活かすドキュメンテーション」を踏まえた活動を進めていく**ことで合意しました。

「地域」も「公園」も「人」も強くなる防災力！

【事業計画 No3-④-6、8、7、53、No4-協-1 No4-協-2、評価区分 13】

国立青少年教育振興機構や、まちのこども園、渋谷消防署と連携し、**普及啓発イベントと避難訓練を実施**しました。また、公園も参加している原宿駅・表参道駅帰宅困難者対策協議会では、コロナ禍での避難者の安全な誘導方法を検討、**地域の対応力強化**につなげました。また、公園機能も充実し、非常用発電設備やデジタルサイネージが設置され、災害対策本部としての機能向上と**救出救助活動拠点や避難者への対応力を向上**することができました。

安心して利用できる公園を影で支える適正利用の推進！

【事業計画 No.3-②-167、170、171、172、評価区分 1】

今年は新型コロナウイルス感染症の影響により、毎週末賑わいを見せた公共イベントが中止、延期とな った代わりに、デモ行進の出発地としての利用が増加しました。その中でも約４，０００人が集まる事態となったデモでは、騒音、損壊等がないよう主催者との打合せを十分に行い、当日は**警察との連携協力を図り、園内の治安維持と安全確保に努めました。**また、自立支援を促すため渋谷区、都第二建設事務所との三者による連携体制を構築、合同巡回を通じて滞留者の福祉利用、健康状態の把握等に努めました。

新型コロナウィルス感染症対策を講じたお花見対応

【事業計画 No3-③-39、53、評価区分 32】

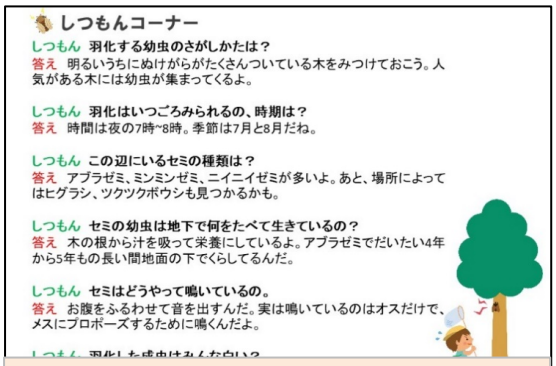
昨年の桜花期では急遽Ａ地区全体の閉鎖を決定。公園内でのお花見を含めた公園利用を全面的に禁止する強い措置がおこなわれましたが、**公園内の「まちのこども園」は利用継続であったことから、運営への影響を最小限に食い止めるため、原宿門と西門に警備員を配置することで利用時間帯での開閉対応など、運営に影響がでないよう対応**を進めました。

今年の桜花期は、都の要請を受け「散策でのお花見」を推奨することとなり、メインの「桜の園」や「中央広場」を中心に宴会やピクニックができないよう、一部エリアの立入を制限しました。**コロナ渦でも安心安全な環境を整えることで、昨年とは違い公園の桜を多くの方に見ていただくことができました。**

生命の神秘を子ども達に届ける　～新たなセミの観察会　動画配信・セルフガイド～

【事業計画No.3-②-144、No.4-協-3 評価区分 22】

毎年子ども達が楽しみにしているセミの羽化観察会をコロナ禍でも楽しんでいただけるよう、**今回新たにセミの羽化の様子をまとめた動画配信と個人で楽しめる観察ガイドと観察シートを提供**しました。より多くの方に見ていただくため、**興味・関心を持ってもらうための導入編**と、**セミの生態を学ぶ学習コンテンツ要素を加えた応用編の２種類を製作**しました。動画はYouTubeやツイッター、デジタルサイネージで配信し、昨年協働で観察会を開催した、成田児童館や大宮児童館、NPOすぎなみ環境ネットワーク、近隣学校等へ動画PRの協力を依頼し、より多くの方に観察いただけるよう働きかけました。Twitterでは、**動画再生回数　約2,000回を記録**しました。コロナ禍で大きく生活スタイルが変わる中、新たな手法による観察会を行うことにより、**多くの子どもたちに生命誕生の不思議さや素晴らしさを伝えることができました。**



子どもでも読みやすい「セルフ観察ガイド」

子ども達が書いた「観察シート」はSNSで紹介

地域の課題に寄り添った地域連携防災訓練

【事業計画No.3-④-52、53　No.4-協-1 評価区分 13】

全国で川の氾濫など水の被害が相次いでおり、川沿いにある公園の近隣住民の方は水害に対する関心が高まっています。

パークミーティングにおいて水害への備えについて話し合い、土のうの作り方や積み方、防災食づくりを訓練内容に取り入れることにしました。

地域連携防災訓練は、大宮一丁目、二丁目、松ノ木、堀ノ内の４町会と杉並区母親クラブの代表の方々と協働で実施しました。

当日の訓練の様子を動画としてDVDにまとめ、コロナ禍のため、今回参加できなかった成田西子供園やゆりかご保育園、松ノ木小学校等に配布しました。

地域の課題に寄り添った訓練を行うことで、地域の絆をより深めることができました。

地域の力で巣立つ雛－オオタカ営巣－

【事業計画№3-③-30　評価区分 1】

緑陰広場のヒマラヤスギに営巣したオオタカの保護措置。（今年度４年目）年を重ねるごとに意見は多様化し、今年度も専門家の意見を参考とし、綿密に都と調整を重ね、オオタカへの配慮とともに近隣住民、日常の公園利用者、愛鳥家との意見調整を図り、営巣地周辺に立入規制区域を設けました。

コロナ禍のため、例年より撮影目的のバードウォッチャーは少ないものの、公園利用者が増加傾向にあったため、子どもの広場利用優先や三脚利用ルールを徹底し、**公園利用者や地域住民とのトラブルの未然防止に努めました。**

約５ヵ月にわたる保護措置は、それぞれの立場からの意見も少なく、公園管理の役割や理解、稀少種保護の重要性を示し、オオタカの雛は無事巣立ちました。

公園を取り巻く地域に配慮した園路広場の改善

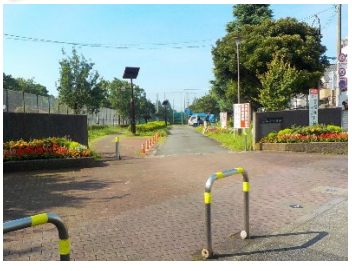
【事業計画№3-③-52、55 評価区分 14、15】

なかよし広場は、調節地上部に作られた芝生の多目的広場で開園当時は芝生に覆われていました。今回の**コロナ禍による利用過多の影響で裸地化が急激に進み**、風が強い日は砂埃で地域住民から苦情の嵐でした。一時的に利用を中止し、表土を耕耘しスプリンクラーで水をまき、芝のランナーを促すとともに緑肥となるクローバーやオヒシバなどを播種し、**約４か月で見事に踏圧にも強い緑の絨毯へと蘇り**を図りました。

また、園内は多くの土の園路があり、雨天時に泥濘となり利用者からの苦情や改善要望を受けていました。今年度は特に主要動線を中心に泥濘土を除去し、砕石と砕砂による舗装にすることで、降雨時、降雨後にも**利用者が安全かつ快適に利用できる環境整備に努めるとともに顧客満足度調査「園内の安全・安心」のポイント向上**につながりました。

お花でお出迎え！おもてなし空間の創出

【事業計画№3-③-61　評価区分 20】



公園入口から駐車場への道は、テニスコートやサービスセンターへのアプローチ的な役割を持つ場所で、そこに20mにわたる花壇の創出や、既存花壇をすべて花苗で埋め尽くし、さらに、サービスセンター前にもプランターを使って華やかさを演出し、**お客様をお出迎えする花のおもてなし空間を創出**しました。

花の苗は、**東京都から提供された「夏の暑さに強い苗」を利用**し、造園・生花店経験のある職員が花壇に奥行感や彩を考え美しく配置し植え付けました。種類も豊富で利用者からお褒めの言葉いただけるほど評判になりました。

地域の育てるコウホネ再生プロジェクト始動！

【事業計画№3-②-132　3③-30、31、36、72 評価区分 6】

アメリカザリガニの食害により壊滅した**希少植物のコウホネを再生させるためのプロジェクトを今年度より始動しました**。和田堀池のかいぼりに合わせて、コウホネの種子が含まれている泥を採取し、その泥をトロ舟に入れた状態で、**近隣の小学校４校、郷土博物館に育成・観察の協力を依頼しました**。

各施設にトロ舟を依頼する際に、コウホネ再生プロジェクトについてのオリジナルの解説看板を制作するとともに、**「コウホネ通信」を職員が作成・発行し、コウホネ再生プロジェクト参加施設に配布**しました。

コウホネ通信は一般利用者向けにも配布、SNS でも配信しました。

地域協働でコウホネ再生に取り組むことにより、再生実現の可能性を高めることができ、希少植物保全に寄与することができました。

今後数年かけて復活までの道のりを地域と共有することにより、和田堀池の自然や生き物や生物多様性の保全の普及・啓発につなげてまいります。

《コウホネ再生プロジェクト協力団体》

・大宮小学校
・済美小学校
・松ノ木小学校
・堀之内小学校
・区立郷土博物館

利用目的の多様化に柔軟な対応

【事業計画№3-②-110、166、167　評価区分 1】

立正中前広場は、和田堀公園の中でも北東端にある飛地で、ふだんは近隣住民しか利用しない静かな広場です。コロナ自粛期間中に、野球、ソフトボール、テニス、サッカーなどの**利用者が急増し、近隣住民からキャッチボール等での騒音問題が増えました**。**近隣住民と利用者、双方との対話**をもち、**小学生以下までの利用に限り可能**としました。利用目的の多様化によって近隣住民との軋轢が生じましたが、安易に「禁止項目」を増やすことなく、**利用者との対話を繰り返すことで約 5 カ月間かかりましたが、適正な公園利用に導きました**。

コロナ自粛期間中は公園利用者増と利用目的の多様化で、利用者と近隣住民との間で対立するケースが多く見られましたが、利用者と公園利用者の意識で向き合うこと、粘り強く丁寧に対応したことにより、問題を解決しました。

将来に継承する池景観への取組

【事業計画No.3-③-31　評価区分３】

和田堀池には現在は**不使用となっているろ過機の配管が残されて**おり、老朽化等により水面に浮き出て、**長年景観を損ない、排水の妨げでゴミが溜まり水質悪化**にもなっていました。昨年度から**計画的に**対応を予定しており、**長年の課題であったこの排水管撤去や善福寺川からの送水ポンプの交換とともに池内清掃**も行いました。回収後のゴミの写真を園内に掲示し、利用者に池を含めた周囲の美化への協力を求める啓発を行うと早速ポスターを見たボーイスカウト団が池周囲のゴミ拾いを始めるなど効果が現れました。さらに、**景観を構成する一部である池周囲の樹木手入れを行い、パークビュースポットである和田堀池の景観向上**とともに水質の改善につなげ将来へ継承する池景観を創出しました。

計画的な有刺植物駆除による安全確保の取組

【事業計画No.3-③-54　評価区分 14】

安心して公園を利用していただくため、園内で繁殖地を広げている傾向がある有刺植物であるワルナスビとアメリカオニアザミ、特定外来生物に指定されているオオキンケイギクの３種にターゲットを絞り、繁殖状況を調査。**園内マップに落とし込み、計画的に駆除**を進めました。**繁殖状況を全体的に把握しサービスセンター職員、未開園地を管理する東京都、善福寺川河川遊歩道を管理する杉並区とも情報共有**し、連携して対策をとることができました。特に、有刺植物を除去することで、子供たちが**安全利用できる園内環境を整える**とともに、地域住民の生活道路ともなっている園路の見通しが良くなり**安全な通行を確保**するとともに**不法投棄や犯罪等の抑制にもつなげました**。

ワルナスビ繁殖地

アメリカオニアザミ

オオキンケイギク

東京ナンバーワンを目指し、地域と育む汐入公園ハーブガーデン

【事業計画№3-②-122、178、180、206　評価区分 20、21、22、24】

①　ハーブガーデンプラン策定とキッズエリア新設

地域の名所となりつつあるハーブ園をブラッシュアップするため、**ハーブボランティアと協働で新たな「汐入公園ハーブガーデンプラン」を策定し**、ハーブの基本情報を提供する見本園エリアとハーブの彩を楽しむガーデンエリアに分けてハーブ園を充実させていくこととしました。また、近隣の保育園や幼稚園にアンケートを行ったところ、**子どもが遊び、学べる場所としてのハーブ園への期待の声**が多く寄せられたため、**希望を取り入れた「ハーブガーデンキッズエリア」を新設**しました。訪れた園児らが、ハーブに触ったり香りを楽しみながら名前を覚えられるエリアです。**ボランティアや職員が、ハーブの名前や色、香りの特徴を分かりやすく説明する「キッズハーブスクール」も好評**で各園からスクールへの参加希望も増えています。引き続き、子どもたちが自然を大切にする心や、自然の持つ力を学ぶきっかけとなるようハーブ園の整備を進め、**子どもたちが豊かな感性を育んでいけるよう**体験メニューを工夫していきます。

【ハーブガーデンプラン】

【キッズハーブスクール風景】

【ハーブガーデンキッズエリア】

②　ハーブ体験の工夫や公園施設管理でのハーブの有効利用

新型コロナウイルス感染症対策のため集合形式のイベントは中止としましたが、**自宅で楽しめるハーブキットの配布**や、クリスマス飾りの作り方やハーブティーの楽しみ方を**ハーブボランティアの協力により、インスタグラムやツイッター動画で配信**するなど、自宅でハーブの魅力を楽しめるよう工夫しました。また、公園の**全トイレにラベンダーで作成した香り袋の「サシェ」を飾り、**ハーブの香りを楽しめる**「癒しのトイレ」として他の公園にはない利用環境を提供**しました。

【クリスマス飾り作り】

【ハーブで癒しのトイレ】

コロナ禍で、ますます公園に癒しを求める声が高まることから、**ハーブボランティアによって大切に育てられたハーブを活用**して、地域住民に憩いと癒しの場を提供し、暮らしの中にハーブを取り入れるための情報発信を進めていきます。

学校と連携した安全安心な遊び方の教育推進

【事業計画№3-②-105、168　№4-協-1　評価区分 14、30】

自分で判断して行動できる子どもの育成を目的に、カラスや蜂、ケムシ等を公園内で見かけた際の注意や、やってはいけない事をまとめた**「汐入公園のキケンないきもの」ポスターを作成**しました。コロナ渦で、個別に開催した「公園連絡協議会」にて小学校や保育園の施設への掲示をお願いし、保護者への情報共有にも協力頂きました。また、**汐入東小学校と連携して実施した「公園アソビスクール」**は、2 年生の課題授業に参加した職員が講師となり**「遊び方カルタ」を使って公園内での遊び方を学習**する場を作り、**子どもたちへの安全への普及啓発に努めました。**

【公園アソビスクール】

【キケンないきものポスター】

新たな防災の取組により地域の防災力を向上

【事業計画№3-②-36、3-④-8、9、51、№4-イ-4
評価区分 13，20、30】

東京都公園協会公式アプリ「TOKYO PARKS PLAY」を使用した防災を学ぶ新しいコンテンツとして、**汐入公園・東白鬚公園共同で「防災おさんぽビンゴ」を制作**し、キャンペーンを実施しました。各公園の防災施設に関するビンゴ形式のクイズを実際に公園内を歩いて回答し、ビンゴ達成を目指すアプリに参加頂き、クリアした参加者には防災公園博士認定証と景品を授与しました。**毎年「みんなの防災まつり」で協力頂いている警察署や消防署と連携してのクイズの作成や**、区報による地域の方々への広報活動を行いました。コロナ禍で合同防災訓練が中止になるなど不安を感じている住民に対し、**スマートフォン等で密にならず自由な時間に参加でき、子供も楽しめる防災アプリの導入で、防災知識を広める**ことができました。

【「防災おさんぽビンゴ」アプリ画面】

スピーディーな対応で新型コロナ対策を徹底

【事業計画№3-③-46　評価区分 32】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、利用が集中すると密になりやすい大型複合遊具、多目的広場を閉鎖するという対応を迅速に行いました。**閉鎖決定の翌日から 3 日間で、B 型バリケードやオレンジネットによる閉鎖措置を完了**しました。閉鎖期間は 4 月 10 日から 6 月 17 日までの 69 日間におよび、その間、遊具の使用中止に対する利用者からの問合せも相次ぎましたが丁寧に対応し、閉鎖に起因する苦情も 3 件に抑えました。また、汐入公園の隅田川沿いの園路はランニング利用者が多く、マスク未着用も散見されたため、**マスク着用キャンペーンを実施**して協力を呼びかけました。

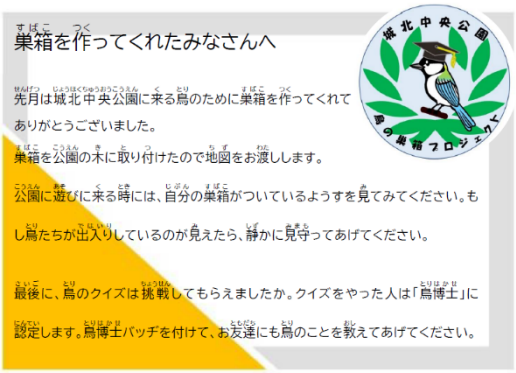
【大型遊具閉鎖】

【マスク着用キャンペーン】

子ども達のための青空学習始動

【事業計画 No.3-②-105 No.4-協-2 評価区分 22】

パークミーティングで地域や公園の課題等について話し合ったところ、コロナ禍において、**近隣小学校が学びの場が少なく困っているとの声**があがりました。地域の課題に着手するため、**桜川小学校と公園ボランティアの四季の会と協働し、子ども達のための青空学習を実施**しました。


巣箱を作ってくれたみなさんへ

先月は城北中央公園に来る鳥のために巣箱を作ってくれてありがとうございました。

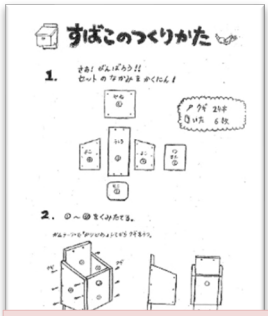
巣箱を公園の木に取り付けたので地図をお渡しします。

公園に遊びに来る時には、自分の巣箱がついているようすを見てみてください。もし鳥たちが出入りしているのが見えたら、静かに見守ってあげてください。

最後に、鳥のクイズは挑戦してもらえましたか。クイズをやった人は「鳥博士」に認定します。鳥博士バッチを付けて、お友達にも鳥のことを教えてあげてください。

今回は園内に生息する野鳥について学んでいただきました。コロナ禍のため、子ども達には自宅で巣箱を制作していただき、完成した巣箱を職員が園内に設置しました。後日、子ども達が自身で制作した巣箱を観察し、野鳥の観察や職員が作成した「鳥博士クイズ」で野鳥について学んでいただきました。学びのしるしとして、鳥博士認定の缶バッジをプレゼントしました。

園内の貴重な自然環境を活かし、コロナ禍においても子ども達が楽しく学べる場を提供しました。



巣箱制作キット

完成した巣箱

巣箱の設置

みんなでやってみよう！防災体験ツアー

【事業計画 No.3-④-53 No.4-協-1 評価区分 23】

にじのいるか保育園や中台小学校の子ども達に、園内の防災施設について学べる**「防災体験ツアー」を実施**しました。防災トイレや防災井戸の使用方法の説明に合わせて稼働訓練を行い、発災時における公園の役割等を学んでいただきました。防災について関心を持つきっかけとなったとの声を多数いただきました。

また、**子ども達の体験ツアーの様子は動画として DVD にまとめ、近隣保育園や小学校、町会等に配布**しました。

コロナ禍において、防災訓練や防災イベントが実施できませんでしたが、動画を視聴いただくことにより、**防災の普及啓発につなげました**。

小さなオアシスからはじめる生物多様性の取組み

【事業計画№3-③-30　評価区分 6】

城北中央公園生物多様性保全対応計画に沿って、**雑木林と一体となったトンボ池の水辺環境創出やバッタ草地の環境づくり**に取り組みました。トンボ池では、これまで閉鎖的であった柵を撤去し親水性を高めるとともに、**ボランティアと一緒に池清掃や生物多様性を普及啓発する掲示板作成**を行い、新たに創出させたバッタ草地では、路傍～低茎～中高茎草地～林縁といった環境を意識し、**草地に依存する多様な昆虫類が生息できる環境づくり**を進めました。

また、週に一度、**ツイッター等のSNSを活用**し、城北中央公園の生き物に関するクイズを開始した他、クイズ冊子を作成し近隣小学校に配布するなど、**生物多様性の普及啓発を図る取組み**を行い多くの方に参加いただいております。

コロナ禍における変化した利用者ニーズに応えた整備

【事業計画 №3-③-34、55 評価区分 2 】

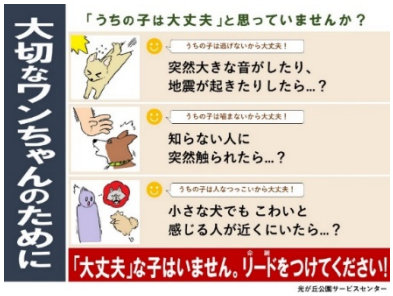
コロナ禍の影響を受け、利用人数が制限された閉鎖的な多目的広場が大人気となった。**コロナ以前の状況と比べ倍以上の利用予約が殺到**し、予約受付日は 100 名を超える抽選月が続きました。この多目的広場は、近年水溜まりや不陸がみられており、この利用人気ぶりを鑑み、広場の快適な利用環境を第一に**今年度の改善する優先順位を見直し、優先的に補修**の対応を図りました。測量等の現状を把握したうえで雨水勾配を見直し地盤高を再設定し、造成をかけて表層には新たにダスト舗装を行うことで、**雨天後も水はけがよく利用しやすい広場環境を創出**しました。利用者の笑顔が増えました。

利用者視点に合わせたメッセージ看板　～遊具休止･犬のマナーアップ～

【事業計画No.3-②-167、68　評価区分1、32】

新型コロナウィルスの影響による遊具施設利用休止に伴い、利用者視点に合わせたメッセージ看板を職員が作成、緊急事態宣言中に迅速に展開しました。単に閉鎖を周知するのでなく、子供向けに親しみやすいデザインやメッセージで作成しました。その結果、**テレビや新聞等メディアでメッセージ看板が多く取り上げていただき、利用者の方に広く周知**しました。メッセージ看板は、**協会ホームページや公園協会が管理する全公園、他の指定管理者へも横展開したほか、茨城県つくば市の公園にも提供**しました。

メッセージ看板の効果により遊具休止に伴う苦情はなく、利用者の皆さまに理解を得られるとともに、保護者の方から心温まるメッセージだったと感謝の声を多数いただき、**利用者の立場に立った管理運営を行いました。**



犬のノーリード等の対応においても、飼い主の視点合わせたメッセージ看板を作成したほか、職員等による特別警備を実施し、犬の散歩者のマナーアップを図りました。

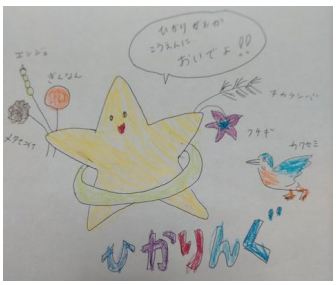
また、園内のスケートボード危険走行の対応においては、利用ルールを設け走行エリアを設定しました。**スケートボード利用者と他の公園利用者の両方の立場に寄り添い改善を図りました。**その結果、改善前と比べて、スケートボードに関する**１ヶ月あたりの苦情が約 8～9 割減少し、効果を得ることができました。**

これからも利用者目線で分かりやすく親しみやすいポスターや掲示物を作成していきます。

公園の魅力創出への取組　～マスコットキャラクター誕生～

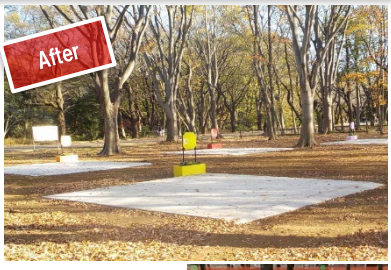
【事業計画No.3-②-178　評価区分 20】

来年度 40 周年を迎えるため、これまで以上に公園に愛着もっていただけるよう**公園の顔となるマスコットキャラクターを職員が企画･制作**しました。キャラクターの風船やステッカー、缶バッジを作成し、公園のイベントやマナー啓発の際に配布しました。**マスコットキャラクター紹介動画を SNS で積極的に PR したことにより、地元テレビ局の番組で取り上げていただき、多くの方に PR** しました。子ども達からイラストが寄せられるなど、公園に愛着を持っていただくきっかけとなりました。今後もマスコットキャラクターを活用し、公園のマナー啓発活動や防災事業等の PR を進めてまいります。



快適なキャンプ場・ＢＢＱ場へのリニューアル

【事業計画 No.3-③-60、61 評価区分２】



バーベキュー利用者のサービス向上のため、昨年度に対応した炊事棟の天井・壁・床・配管内等の洗浄、水道の水栓交換、シャッター補修に続き、適正な利用を促すため、今年度は**各サイトの区画を明確化**し、サイト毎の**ユニバーサル対応床板舗装、区画番号表示設置**を行いました。**区画の明確化**を図ることでデイキャンプ及びバーベキュー利用者以外の**不正利用、いたずら等防止を図る**とともに、ＢＢＱ広場全体をリニューアルしたことで広場全体の美観が向上し、**今年度からの WEB 予約化のスタートにより、快適に利用できる環境を整え、利用サービスの向上につなげました。**

野球場の快適なフィールド改善

【事業計画 No.3-③-34、55 評価区分２】

光が丘公園の野球場は利用頻度が高く整備されてから長年が経過し不陸、排水不良などの支障が目立っていました。**利用者からの改修要望の声も多く**、昨年度から**３ヵ年の計画で４面あるフィールドの補修**を行っており、今年度はＢ野球場の表層の補修工事を行いました。測量を行い適正な高さを再設定しフィールドの整正とともに各ベースやダッグアウト、倉庫、得点板等球場全体の補修を行い利用者が快適に使用できるスポーツ施設を提供することができました。**不陸が改善され、特に、降雨後の水はけについては、大きな効果が確認**されたことと併せて、**利用者の清掃意識までもが変化し大切に利用されるようになり、日々整備の質の向上にもつながりました。**

安全・安心を支える維持管理（共同作業による安心空間の創出）

【事業計画 No.3-③-28　評価区分５】

区部西エリア維持職員共同作業による**牛旁地区の中高木剪定、下草刈り、枯損木処理**を行いました。牛旁地区は光が丘公園駅に向かう通勤通学などの生活道路で、利用者は多くかつ勾配がある園路であり、樹木の繁茂による夜間の暗闇や落ち葉によるスリップなどが懸念されていました。今年度は、夏前の低木刈込とともに秋の剪定、下草刈りを集中的に行うことにより、**かつてないほどの明るく見通しの良い安心できるエリアへと変貌を遂げました。共同作業によって作業時間や通行規制等が短期化**し、適期の速やかな対応と利用者への安全管理に努めながら**見通しや風通しが改善され、犯罪や害虫発生を防止し安全・安心・快適な公園環境を創出**しました。作業中に多くの利用者から声を感謝の声をかけていただきました。

地域の子どもの健やかな成長のために、スポーツの場を提供

【事業計画No.3-②-124、No.4-イ-2　評価区分 20】

コロナ禍で活動が制限されている子どもに、楽しく安全に運動してもらうため、足立区少年軟式野球連盟へはたらきかけ、**屋外という公園のメリットを活かしたスポーツ教室を開催**しました。感染リスクを回避するプログラム内容について綿密な調整を行い、消毒等の感染対策を徹底して、ストラックアウトとティーバッティングを実施しました。45 人の参加があり、**コロナ禍でも安心して身体を動かせる機会を提供できました**。実施にあたり、協力団体との連携を深め、子どもの運動能力向上に寄与するプログラムとなりました。アンケート結果でも、**技術向上の喜びの感想等、約 9 割が満足**との回答となったほか、**子どものニーズ（公園でやりたい遊び）を把握できました**。今後も、子どもの公園遊びを促進し、多様なライフスタイルに寄与していきます。

【ティーバッティング】

【ストラックアウト】

【ソーシャルディスタンスを確保】

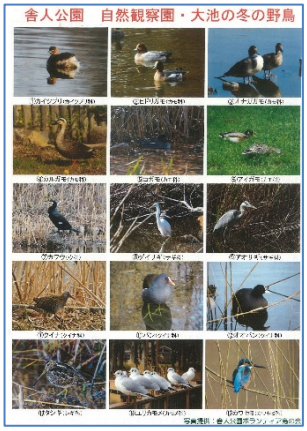
セルフガイドシートで、野鳥観察のきっかけづくり

【事業計画No.3-②-131、132、144　No4-協-2　評価区分 22】

毎年 2 月開催の野鳥観察会が中止となる中、冬季にかけて飛来する野鳥が初心者の観察に適していることから、**代替プログラムとしてセルフガイドシートを作成**しました。巣箱設置や調査等を協働で行っている**鳥の会と協力**して、**セルフガイドシート「冬のバードウォッチング」と「自然観察園・大池の冬の野鳥」を新規に作成**し、ホームページに掲載することで、自然に関心を持つきっかけを提供しました。セルフガイドシートは、**小学生にも理解できる初心者向けの内容と、観察できる環境や時期等のより詳しい内容の 2 種類を**、鳥の会との協働で作成し、わかりやすく質の高いものとなるよう工夫しました。2 月の月間ページビューが 501 となり、多くの方に**自然観察園や大池をバードウォッチングの適地として PR し、園内の生物多様性について普及啓発することができました**。今後も継続して、鳥の会と協力し、自然とのふれあいの場を提供していきます。

【鳥の会との協働鳥調査】

【冬のバードウォッチング】



【自然観察園・大池の冬の野鳥】

清潔で快適なトイレ環境の創出

【事業計画No.3-③-59　評価区分3】

トイレ特別清掃を実施しました。床面や壁面の特別清掃とともに悪臭の原因となる便器の尿石除去を徹底しました。小便器周りの床には、汚れがしみこまないように**MMA 樹脂モルタルを塗装して、美観が長く保てる工夫をしました。**また、園内にある**ローズマリーで作ったリースを壁面に設置**し**防臭と香りで**清潔感のある空間が生まれました。また、17 号トイレ屋根のトップライトに夜間の映り込みを解消してほしいとの要望があり、**メッシュシートを加工し改善**を行いました。

【清掃状況】

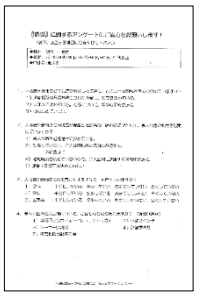
【ローズマリーリースの設置】

地域防災力のサポート向上につなげる取り組み

【事業計画No.3-②-105、3-④-11、12、50　No.4-協-3、4、自-6　評価区分13、23】

例年２月に開催している公園連絡協議会が新型コロナウイルス感染症対策のため中止となり、その代替として、**近隣の町会・自治会と小中学校、幼稚園、保育園など新規団体含む 16 団体を対象**に、**防災に関するアンケート**を実施しました。**94%にあたる 15 団体から回答をいただき、舎人公園と連携した訓練や講義の要望などがあり、今後の連携強化につながる成果**を得ることができました。回答団体には、アンケートの集計結果・分析とともに当協会で作成した**防災事業普及啓発 DVD を配布し、防災公園の役割、防災ワークショップ動画を提供し地域の防災力に貢献**することができました。また、同じく開催中止とした防災フェスタに代え、**自由な時間に防災施設について学べる「防災ウォークラリー」アプリを提供**し、防災知識の普及啓発を推進しました。

【防災事業普及啓発 DVD の動画の内容(一部抜粋)】



【防災に関するアンケート】【「防災ウォークラリー」アプリ】

コロナ禍での新しいソリゲレンデ利用ルールの策定と PR

【事業計画No.3-②-168　No.4-自-8　評価区分14、23】

コロナ禍でもソリゲレンデを安全に利用していただくため、新しい利用ルールを策定、利用者の多くなる夏休み期間に『ソリゲレンデマナーアップキャンペーン』を実施しました。ソリの貸し出し時に「利用案内」を配布し、安全な利用方法を PR しました。利用者１人１人に声をかけたことで二人乗り等の危険行為の減少やマナーの遵守につながり、**安全に遊べる環境を提供できました。**整理券の事前配布による時間と人数制限をした“新しい利用ルール”の運用を通じ、利用者のご意見を取り入れて、利用状況をツイッターで発信する等、**利用者サービスの向上にもつなげました。**利用者アンケートでもソリの消毒が高評価で、**新しい利用ルールの理解度も 9 割を超えました。**

【利用案内の配布】

【利用状況：足元サインに従い整列】

【ツイッターを活用した利用ルール PR】

水辺のさとの機能を拡充

【事業計画№3-②-144　評価区分6、20、22】

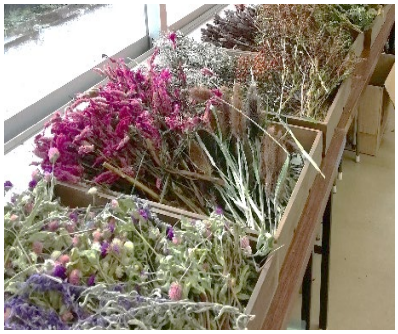
水辺の生きもの館の展示は植物関係の展示がメインで、公園に豊富に生息する生きものに関しての展示が少なかったため、生きものの展示を充実させる第一歩として、今回は**「蟲の声を聴く会」のボランティアとの協働で「トンボクイズ」パネルを作成**しました。「水辺のさと」には貴重な絶滅危惧種のトンボがたくさん飛来し、交尾・産卵・ヤゴになり成虫として飛び立つまでを目の前で観察できます。水辺の生きものであるトンボについて、来館者にクイズ形式で展示。これを見た利用者のなかには、後日、**家族を連れて再来園する方が見られるなど大変好評**でした。9月の展示開始後から3月末までの来館者は、**11千人と、H31年度同時期の19%アップ**となりました。今後もさまざまなテーマで展示を行い、リピーターを増やして多くの来館者に、自然豊かな水元公園の魅力を紹介します。

【大好評のトンボクイズ】

コロナ禍に負けないイベントの工夫

【事業計画 No.3-②-122、183　No.4-自-8 評価区分 20、23】

植物を使用した講座を開催して欲しいという利用者のニーズに応え、例年、スワッグ作りやハーバリウムなどのワークショップを実施し、告知前から問い合わせが殺到するほど人気となる「花摘みイベント」でしたが、感染症拡大防止のため集合形式のイベントは中止になりました。しかし、自然に触れ、少しでも花によるストレス解消をしていただこうと、キットの配布を企画しました。**花を乾燥させるためにボランティアと2カ月前から準備をはじめ、水元公園ならではの種類豊富な花材でつくったドライフラワーと作り方の冊子を入れ**、誰でも簡単に作れるようにしました。**当初100個配布予定でしたが、好評だったため予備で用意した40個分も合わせて140個を配布しました。事前告知のツイッターのインプレッション数は5,000回を超え、水元公園の花壇ボランティアの活動が広く知られるようになりました。**キットの配布会場のグリーンプラザに初めて足を運んだ方もおり、「水元公園にこんなに大きな花壇があったことを知らなかった。」「ハーブ園も散策して帰る。」など、**花壇ボランティアの活動を広くアピールできました。**また、ツイッターで完成作品を投稿していただくなど、ステイホーム中にアレンジメントを通して水元公園の自然に触れていただくことができました。



【ドライフラワー製作】

【配布キット】

【投稿された完成作品】

コロナ禍へ的確に対応

【事業計画 No.3-②-150、168、175、183　評価区分 12、14、15】

ハナショウブ開花期に多くの来園者が予想されたため、**はなしょうぶ園内に安全に鑑賞できるルートを設定し、その他のルートは閉鎖**しました。**職員による巡回時でのきめ細かな声掛け、横断幕や掲示物の工夫、及び、ツイッターでの周知により、開花期間中は密にならずに花を観賞でき、利用者からの苦情も皆無**でした。主要な出入り口には**注意喚起の路面ラッピング**を施し、感染の抑制に努めました。また、**混雑への不安が近隣住民から寄せられたため、職員による特別巡回を 4 月～6 月に実施**（※午前・午後 各 2 回、園内放送での注意喚起、拡声器での呼びかけ等）。長時間滞在につながりやすいサンシェード利用者に早めの帰宅をよびかけ、公園が密になる状況を回避して利用者の安全、近隣住民の安心を確保しました。

【はなしょうぶ園の一部閉鎖】

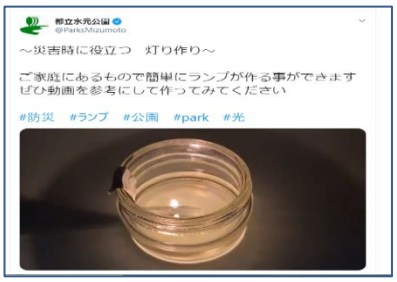
【路面ラッピング】

【特別巡回】

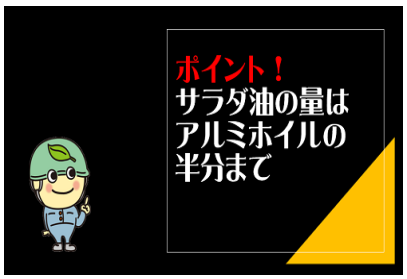
防災動画で広域に防災情報を発信

【事業計画 No3-④-49、No .4-自-5　評価区分 13】

コロナ禍により、定期的に開催していた防災体験ワークショップが実施できなくなったため、災害時に役立つ「灯り作り」動画を水元公園独自に作成しツイッターで配信しました。職員が動画を作成するのは初めての試みだったため、災害用ランプの作り方の紹介をしている「市民防災研究所」にも確認作業に協力していただき完成。**ツイートを見た回数が 11, 456 回、動画の再生数が 1260 回を超えました。通常の体験教室の参加者は 20～30 人であるため、非常時に役立つ知識を周知**できました。また、防災事業普及啓発 DVD にも収録され、全防災公園の周辺地域にも配布されることとなり、より多くの人に防災知識を広めることができました。



【ツイッターで動画配信】



【作成のコツを文字で分かりやすく説明】

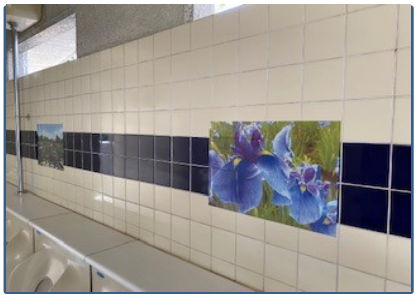
【配布用 DVD】

使いたくなるトイレにリニューアル

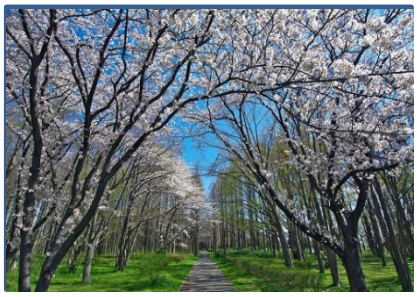
【事業計画No.3-③-59　評価区分 3、14】

利用頻度の高いトイレの美観向上対策として、利用者が多く構造的に暗く、臭気が残りやすい噴水広場にある 4 号トイレと、主要園路や第 1 駐車場に隣接する 5・6 号トイレを対象にして、**悪臭の主たる発生源となる男子小便器の尿石除去および汚垂石の消臭コーティングを実施**しました。また、**建屋内には、水元公園の四季折々の風景写真のラッピング**を施すことで、視覚的にも楽しめるようにして、トイレを快適に使え、汚しにくい雰囲気を創出しました。

【作業前】



【施工状況】



【風景写真ラッピング】

コロナ禍におけるプログラムの工夫によるアジサイ園の魅力発信

【事業計画№3-②-152、183、③-78、4-イ-2 評価区分 20】

パークビュースポットであるアジサイ園をアピールするため毎年開催していた「アジサイ祭り」は、コロナ禍により中止し、**アジサイの見頃の一週間を『篠崎公園アジサイ WEEK』と位置付け、関連プログラムを実施**することで、花による公園の魅力を PR しました。アジサイ園の MAP を大型化して設置することで、アジサイの品種を紹介したり、また、「アジサイクイズ」シートを配布し、アジサイの基本知識を知っていただく他、1 株だけの品種「混レイコ」が、どこに咲いているか探してもらうことで、品種による違いを観察するきっかけづくりをしました。参加者にオリジナルのアジサイ缶バッジをプレゼントすることで、期間中雨天が多かったにもかかわらず、50 人の方に参加していただきました。＜観て！学んで！探して！楽しんで！最後に景品を GET！＞と、**子どもから高齢者まで幅広い世代に、楽しみながら、アジサイ園について深く知っていただくことができました**。昨年度アジサイ園の散策路（目地）を補修し、バリアフリー化したことも「大変歩きやすくなりました」と好評でした。「アジサイ祭り」に向けたアジサイの維持管理には、計画的な剪定、水遣り、除草、施肥等、職員やボランティアによる大変な労力が必要ですが、その努力によってアジサイの樹勢を維持し、来園者に**多種多様なアジサイの美しさを提供**することができました。今後もアジサイ園の魅力が向上し、地域の名所とになっていくよう計画的に更なるアジサイ園の活性化を図り、地域住民とともに篠崎公園の魅力を向上させていきます。

【大型看板による品種の紹介】

【アジサイクイズシート・裏面はアジサイ MAP】

【昨年度補修の園路をお披露目】

地域住民の防災力の向上を強力にサポート

【事業計画№3-②-105、④-9、11、28、46、47、4-協-3　評価区分 30】

コロナ禍のため「公園連絡協議会」の会議体を中止し、メンバーを対象に防災に焦点を絞ったアンケートを実施し、**今後の地域連携防災訓練の企画に活用しうる情報を収集しました**。町会・自治会 9 団体、小学校 6 校、幼稚園 3 園、障がい者施設 1 団体の新規含む**計 19 団体から 112 件の回答**をいただきました。**結果を分析**し、発災時の初期対応、自宅での備蓄品、豪雨災害時の「区のハザードマップ」の理解と避難行動、篠崎公園の防災機能等、**基本情報を「防災について」と題した独自のフィードバック資料にまとめ、回答団体に発送**をしました。**自治会からは、「資料がとても分かりやすく勉強会で役立った。」との声も寄せられました。**地域の防災に関する課題を明確にし、今後も初期対応の理解度の向上、備蓄の推進、ハザードマップの理解について各団体と双方向で意見交換をしながら防災意識の向上を強力にサポートしていきます。

【篠崎公園で作成した防災についての資料】

運動施設補修による利用者の快適性向上

【事業計画№3-③-34、55、59　評価区分２】

有料スポーツ施設の多い篠崎公園では、施設の老朽化が大きな課題であり、**施設補修を計画的に行い、施設利用者が快適に使用してもらうことが重要**となります。今年度は、野球場内野グラウンド等の不陸補修の他に、**フェンスの補修にも着手**し、また、直営作業で汚れが目立つ**４カ所のバックネット腰壁部分の塗装**を行い、快適性を向上させました。　熟練した維持職員により、コンクリート面のケレン・モルタル等での下地補修から塗装まで約二週間で完成しました。下地処理と塗装作業は、緊急事態宣言によるスポーツ施設閉鎖期間を利用し、効率的に作業を進めました。今後も、補修のテーマを設定し、利用案内看板や表示類の更新、ベンチやスコアボード等の補修を進め、利用者が施設を快適に使える環境の維持に取り組みます。

【補修前】

【補修後】

人気の工作教室を初のセルフ工作方式で開催！SNS で相互コミュニケーション

【事業計画№3-②-206、4-自-4　評価区分 23】

コロナ禍で多くのイベントが中止となりましたが、毎年人気の高い工作教室を開催すべく、セルフ工作方式での開催に挑戦しました。楽しみにしている子ども達のために、「どんぐり」「クリスマスリース」の２回ともに、素材だけではなく、**どんぐり MAP、材料の紹介、工作の見本と作り方までをセットで配布し、自然と親しむ機会を提供しました。**参加者からは完成度の高いものが作れたと好評でした。また、完成作品のサービスセンターへの持ち込みの他、初めて SNS（ツイッター）を活用して作品の投稿を呼びかけところ、リースでは４組の投稿があり、**公園と参加者の双方向コミュニケーションの促進につながりました。**

今年度初めて有料プログラムとして開催しましたが、すぐに定員となったことで、本プログラムへの期待を確認することができました。次年度も利用者に喜ばれる、公園発生材を活用したプログラムを提供していきます。

【Twitter への参加者投稿】

【どんぐり（左）クリスマスリース（右）　セルフ工作ツール】

【利用者への安全】に配慮した施設改善

【事業計画№3-②-244、③-33、55、60　評価区分 14】

B 地区野球場側の園路沿いの樹木の根が隆起し、舗装を持ち上げて不陸が発生したため、利用者の自転車走行の障害になり危険な状態が見られました。また、特に高齢の歩行者がつまずいたりする危険性もあったため、根を除去し舗装を修復することにより不陸が解消され、**バリアフリー化、及び安全な移動空間の提供ができました。**

【根上がり補修後の園路】

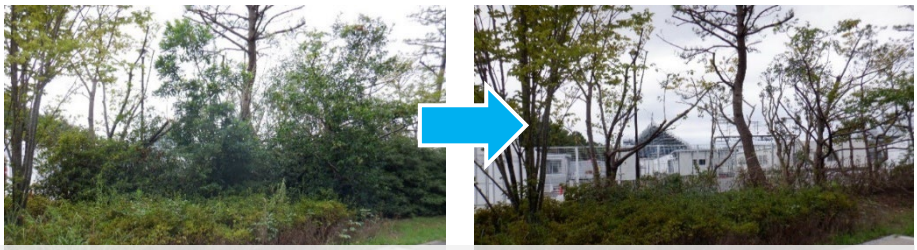
東京 2020 大会に向けた安心･安全確保　ラストマイル整備とテロ対策訓練

事業計画 3－②－1、6、22、64　3－③－42　評価区分 14･32･30

「警視庁警備部オリンピック・パラリンピック競技大会警備対策推進事務局」専門官との現地確認、警察庁主催のセキュリティ検討会への参加等により、警備上の死角となる箇所について確認。**死角を生みやすい樹木や植栽については剪定・刈込を行い、ラストマイルにふさわしい美観と見通しの良さを実現**しました。また、**所管警察と連携したテロ対策訓練を実施し、万が一の際の対応力を強化**しました。

1 月には**葛西警察署、園内各施設、江戸川区、JR 東日本千葉支社等に参加を呼びかけ葛西臨海公園連絡協議会を開催**。2019 年のラグビーW杯の事例等を参考に大会開催期間中に想定されるリスク等を共有し、**葛西臨海公園エリア全体が一体となってリスクマネジメントに取り組む方針を共有**しました。

警察との現場視察


樹木剪定･下草刈り等により五輪会場付近の死角を解消し、安全性を向上

長年の課題を解決！芦ヶ池の流れの復元によるパークビューの創出

事業計画 3－③―20、21、42、46　評価区分 2

芦ヶ池の流れは日本庭園の水が流れ込む構造になっていましたが、経年劣化により日本庭園の水がオーバーフローする高さと、芦ヶ池側の流れの流出口（ピット）の高さが逆転してしまい、長らく日本庭園からの水流が止まったままの状況でした。開園当初の流れの景観を知る来園者からは流れの復元を望む声が寄せられていました。そこで都と協議の上、**芦ヶ池側のピットの高さを切り下げる工事を行い、日本庭園側からの水の流れを復元**しました。また、**近隣共同作業により流れ周辺の樹木剪定や下草の刈込み等を行い、流れに配された自然石の石組みが際立つ新たなパークビューを創出**しました。

芦ヶ池はラストマイルに近接しており、**東京 2020 大会の観戦に訪れる方により美しい景観を楽しんでいただくことができるようになりました。**

共同作業により石組みを活かした修景を創出

日本庭園からの通水を回復し、芦ヶ池の流れを復元

23 区内で葛西だけ！鳥類園におけるヒクイナの調査･保護保全活動

事業計画 3－②－35、47、80　評価区分 22

昨年度に鳥類園内で絶滅危惧種のヒクイナのヒナが観察されたため、**サービスセンター、東京都市大学、NPO 法人生態教育センターの三者で葛西鳥類保全委員会を設立**し、**センサーカメラと録音機による生態調査を行い、計 3 回の繁殖を確認（23 区内の繁殖確認は鳥類園のみ）**。ヒクイナが好む環境づくりを一層推進するため、**企業 CSR 活動を新たに 2 社 1 団体誘致し、水生植物等の管理作業を行いました**。また、**クイナ類の専門家である福井市自然史博物館・NPO 法人どうぶつたちの病院沖縄と連携したシンポジウムを開催**。**鳥類園の豊かな自然を広く PR** するとともに、専門家との意見交換により**次年度以降の調査保全活動に向けた貴重な知見を得ることができました**。さらに葛西鳥類園保全委員会では葛西海浜公園におけるコアジサシの保護にも取り組み、**葛西臨海公園で伐採した竹を使って保護区を干潮時に現れる干潟域にまで拡大し、コアジサシの営巣数を過去最大規模にまで増やすことに成功**しました。

ヒクイナの親子

CSR 活動(植生管理)

ヒクイナシンポジウム

コアジサシ保護区の拡大

新しい時代に対応！デジタルと公園での実体験を融合した新たなイベント展開

事業計画 3－②－19、29、36、67、72　評価区分 20

コロナ禍において、①密にならず安心して楽しめる、②コロナ後を見据えて将来の公園ファンをさらに増やす、をテーマに動画配信やイベントを実施しました。**「夜の生きもの観察」「TSUNAMI VIOLIN コンサート」などの在宅でも楽しめる動画配信（全 18 本）は総再生回数が 2.4 万回を超える**人気となりました。また、**JR 京葉線や園内施設等と連携したアプリコンテンツ「葛西臨海公園クイズ王」「かさりんウォークラリー」（総参加者数：5,653 人、Web 広告閲覧数：約 11 万人）等によりデジタルと公園散策をミックスした新たな公園の楽しみ方を提案**し、接触や密なく多くの方に公園の魅力を満喫していただきました。さらに、**人出の少ない夜に行う「星空観察会」を新たに実施**したほか、コロナ対策を徹底した上で「野鳥観察会」等を行い、**身近で自然を楽しみたいという来園者のニーズに応える**など、地域を代表する公園として、**1 年を通じてコロナ禍におけるレジャーや癒しの機会を提供**しました。

【動画コンテンツ】
- ･自然:9 本
- ･コンサート:4 本
- ･防災:4 本　その他:1 本

【アプリコンテンツ】
- ･ウォークラリー:3 本
- ･クイズその他 2 本

五輪を見据えた防災対応力強化　ユニバーサルチャレンジ･津波対策強化

事業計画 3－④－48、56　評価区分 13

パラリンピックの開催に向け、災害時要支援者への対応は当公園の重要な課題です。そこで、地域の障がい者支援団体と連携し、身体障害のある方が参加する防災訓練「ユニバーサルチャレンジ」を実施しました。**実際にかまどベンチや防災トイレの設営等に障害のある方やその支援者に参加してもらい、災害時に実際に起こりうる状況を再現し、職員・利用者双方の理解・経験を深めました**。また、都が新たに整備した車いす避難用のスロープや津波フラッグ（葛西海浜公園）の活用を含めた津波避難誘導マニュアルを策定し、**車いす利用者や園内放送が聞こえない聴覚障害の方をより安全かつスムーズに避難誘導する体制を整えました。**

車いす利用者の火起こし訓練

“とみんとつくる、中央公園（セントラルパーク）プロジェクト”始動

【事業計画 No.3-②-178、 評価区分 22】

地域との連携を深めながら公園利用の促進を図ることを目標に、公園を「表現のための野外スペース」として利活用する取組みを計画し【とみんとつくる、中央公園（セントラルパーク）プロジェクト】と名付けました。プロジェクトの第一弾は、**公園の野外ギャラリーです。これは、市内 12 の学区域ごとに子どもの見守りと健全育成を推進する青少年問題協議会（青少協）千川地区委員会での情報交換で得られた“コロナ禍で発表・披露の場が失われている”という声を踏まえたものです。多世代の創作と発表の場「ぱーく・すぺーす」をサービスセンター前に設け**、青少協の呼びかけで集まった**子どもたちによるペイントで今年開催される五輪の色をペイントし、賑やかな空間が完成**しました。今年度は、主に絵画等の展示ギャラリーとして、子どもたちが描いた絵画を飾り、来園者の方々にも楽しんでいただきました。

どなたでも気軽に作品の発表ができる機会を創出するとともに、子どもたちを見守る地域の活性化を実現、子どもたちをはじめ地域の感性を育くむ場として活用しました。

【五輪の色をみんなでペイント】

【子どもたちの絵を展示】

アプリで学ぶ・楽しむ「公園の過去・現在・未来」

【事業計画 No.3-②-149、 No.4-イ-2、評価区分 20】

【子どもから大人まで楽しめる「ひこうき雑学クイズラリー」】

中島飛行機製作所という軍需工場の跡地である当園は、現在も紙飛行機イベントが行われるなど「ひこうき」とゆかりのある公園です。そこで、企画段階から当園で活動をしている日本紙飛行機協会に監修を依頼、カシオ計算機株式会社と連携し、**園内全域を約 1 ㎞で歩けるよう 9 か所のクイズポイントを設定。歩きながら謎解きに興じるスマホアプリ「ひこうき雑学クイズラリー」を開発・リリースし、一人でも、公園に親しんでいただけるようにしました。**クイズポイントには発生材で製作した動物等を設置し、子どもでもポイントがわかりやすくすると共に、デジタルコンテンツでありながらも、自然のぬくもりを感じられるよう工夫しました。

YouTube コンテンツ“むさちゅーぶ”配信よる広域広報

【事業計画 No.4-協-4・自－2、評価区分 21】

コロナ禍の新しい情報発信手段として、協会の YouTube チャンネルにおける独自コンテンツ“むさちゅーぶ”を立ち上げ、配信を始めました。公園の前身であり戦時下に空襲の標的となった中島飛行機武蔵製作所の歴史も含めて、関係者・地域の方にも参加いただき公園を紹介した「紙飛行機に想い乗せて」、職員が講師となった「クリスマス・スワッグをつくろう」の配信は、**武蔵野市観光機構にも依頼し、リンク協力により多方面への広報を図る**等、「作って終わり」ではない効果的かつ継続性を持った PR を実践しました。併せて**地域の WEB メディア等へも情報提供をおこない、反響もありました。**

【動画は【むさちゅーぶ】でシリーズ化】

協働による保全管理 ～遊びながら守り育てる、僕らの林～

【事業計画 No.3-③-30・36、 評価区分 6】

【はやしっこ act.】

多様性保全に持続性を持たせるため、**武蔵野地域で複数の児童発達支援施設を運営する社会福祉法人どろんこ会に働きかけ、子どもたちとの樹林地管理計画【はやしっこ act.（アクト）】の活動を開始。遊びながら都市の樹林を守ろうというコンセプト**のもと、初回の活動では、おちばかき・土の中の虫観察・山地の落葉樹林に生える多年草の種まき等を体験いただき、団体からも**身近に子どもの社会貢献の場所があることはとても嬉しい**と喜ばれました。

さらに、**3 箇所ある保全エリアについて、解説板を新設し、取組みについて広く PR** しました。その上で、**「里山の雑木林エリア」について、関係団体の公募により集まった 8 候補のうち、公園利用者投票により最も得票の多かった「みらいの林」を愛称として使用することが決まり、地域に親しまれる林づくりをすすめました。**

おもてなし舗装と施設の長寿命化による快適性向上

【事業計画 No.3-③-25・60、 評価区分 2】

北側の外周園路（土、ウッドチップ敷）は、散策等で多くの方にご利用いただいています。しかし、雨天時等は土のゆるみが生じ、補修を繰り返してきました。今回、快適性向上を図る「おもてなし舗装五か年計画」を策定。今年度は、**砕砂（砕石を砕いてできた砂）での舗装**を行いました。浸透性の確保と軽車両の通行にも耐える強さがあり、**足元の安全と快適性を大きく向上**させ、この工法採用により**敷設費用の抑制**にも繋がりました。利用者からは、毎日の散策路が整備され嬉しい、との声が多数寄せられました。また、外周園路北東端にある四阿「草思庵（そうしあん）」も、**部材点検や柱・梁・屋根裏までの高圧洗浄から塗装**までの一連の作業を職員により実施し長寿命化を進めました。**開園より 30 年**を経過しましたが、散策時の休憩場所として**引き続き安全や快適性を確保**し、長く皆で大事にご利用いただけるようにしています。

【おもてなし舗装後】

【屋根･柱についたコケや樹脂なども洗い流し、塗装を施すと新築のような姿に】

個人で家族で、少人数で、好きな時間に気軽に参加できる「ちょこっとボランティア」

様式 3-②-105・122/③-36/様式 4-協-3・イ-6　評価区分 22

コロナ禍でも密にならず、個人（少人数）で好きな時間に気軽に参加できる都民協働の形を、昨年度の**公園連絡協議会での地域の方々の意見をヒントに具現化**しました。８月**「花壇水やりボランティア」では、降雨の少ない夏季にセンターで貸し出すペットボトルで散策しながら花壇に水遣りをしていただきました。貸出した水遣り用ペットボトルは、近隣保育園児 20 名が描いた絵を貼り付け、ボランティアを園児の絵が応援するようにしました。これにより、使用後もセンターに戻ってくる効果にもつなげました。**保護者や他園の父兄にも反響が大きく、**園内の花を地域で一緒に育てる都民協働事業が地域コミュニティ活性化に一役買いました。**また、10 月**「落ち葉掃きボランティア」**では、**来園者から園内の落葉清掃を一緒に行いたいとの声を拾い**、子供連れの家族から年配の方まで幅広く楽しんで安全に参加いただけました。**年間参加者は延べ 350 人**に達し、維持管理作業への貢献はもちろん、**公園への愛着を深めるとともに、公園でのボランティア活動に興味を持っていただけるきっかけ作りとなりました。**さらに、**地域の方々に提案の具現化と成果を報告したところ、大きな反響と喜びの声が届き、来年度以降も更なる地域の意見や要望を共有化する下地もできました。**

【ペットボトルで花壇に楽しそうに水遣りする子供とボランティア募集掲示】

【家族総出で園路の落葉を楽しんで集めてくださる方も】

ラグビーワールドカップで結んだ縁を強固なものに～スポーツで町を元気に～

様式 3-②-105　評価区分 20・22

地元府中市は「ラグビーのまち」として知られ、スポーツ施設の多い当園でも、ラグビーワールドカップの機運を高めるため、2019 年度は、ラグビーフェスタを実施しました。その際の盛り上がりを次世代の子供たちに引き継ぎ、公園と一緒に何ができるかをラグビーフェスタで協力頂いた**「ラグビーのまちふちゅうサポーターズ」の方々**（漫画家、飲食店経営、ラジオパーソナリティ、民間ラグビーチーム代表、音楽関係者など）と、コロナ禍を考慮し、今年度はリモート会議を開催。そこで交わされた意見を参考に、さらに拡大して地域の方々にアンケートを取得し、子供たちがいろいろなスポーツを自由に体験できる**トータルスポーツイベントの開催を望む声があることがわかりました。結んだ縁を大切に、様々な手法で関係強化を図り、町を元気にする取り組みを企画実施する布石となりました。**

【今年度はリモートで会議を】

地域連携制作のオリジナルイベント動画をオンラインで発信しました

様式 3-②-121・124・216/様式 4-イ-1・2・10/自-1・2　評価区分 20・23

府中の森公園ならではの楽しいイベントを、コロナ禍で急遽、**地元大学生など地域の協力者とスクラムを組んで 4 種の動画を作成し、配信することにしました。製作した動画は、YouTube、Twitter、園内のデジタルサイネージを活用し、ツイッター1000 回、ユーチューブ 900 回以上の視聴をいただきました。当初参加いただく予定の数十倍の方に視聴いただき、動画を通じて広く当園を知っていただく機会にもなりました。**

【農工大大学生と制作した動画は好評】

また、今まで築き上げた地域との関係も、動画制作を通してより強固なものにすることができました。

【クリスマスカラーの噴水のライトアップ】

動画タイトル	協力者	ターゲット	視聴回数
昆虫原っぱで観察しよう 配信：８月 27 日～	多摩動物園学芸員	幼児小学生	約 1200 回
動物たちを見に行こう 配信：12 月１日～	農工大学生 20 名	幼児小中学生	約 130 回
はじめてみよう！ インターバル速歩 配信：12 月 24 日～	インターバル速歩インストラクターと生徒さん３名	シルバー及び 健康志向者	約 550 回
噴水ライトアップと 天体観測会 配信：12 月 17 日～	府中市郷土の森博物館 学芸員２名	小中高校生及び 天体愛好者	約 150 回

※視聴回数は 2021 年 3 月 31 日現在。含む Twitter 配信

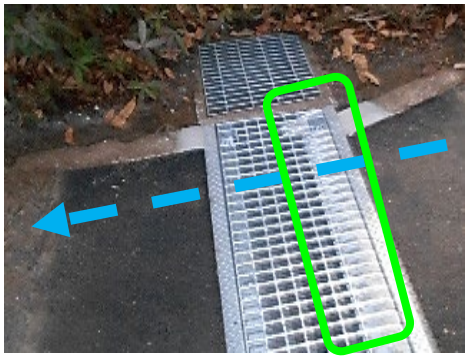
ゲリラ豪雨にも落ち着いて対応！水害ハザード抑え込みに成功しました

様式 3-③-25・38・43　評価区分 2

公園西側の住宅地に面したアカシア通り周辺のエリアは、**大雨時ハザード**として日常時の雨水桝点検・清掃や大雨予報前の事前対応等を実施していましたが、近年、50mmを超えるゲリラ豪雨などの増加で、根本的な改善が急務となってきました。そこで、重点区域内の**雨水桝・排水管内の高圧洗浄**と、雨水排水系統の再確認と 350 か所の桝総点検を改めて実施しました。その上で、流出リスクの高い緑町公園口には**横断側溝を新設**し、**越流抑制ガイドスロープ付きのグレーチング蓋**を採用しました。また、**既設桝 30 か所**についても、短時間での水の飲み込みを重視し、グレーチング蓋を**網目の大きいものに交換しました。目詰まりの解消にもつながり、**結果、ゲリラ豪雨時の出水や通行障害を解消し、**周辺地域と園地の安全性向上**になりました。

【改善箇所位置図】

【新設の横断側溝全景】



【緑の部分に落ち葉が溜まらず集水機能を確保する】

安心・安全なのびのび親子館～新型コロナ対策を取り込んだ公園管理運営

【事業計画 No.3-②-139、No.3-③-46、No.4-イ-1、評価区分 3･14 】

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、来園者を守るためには、職員自身も感染防止に努めなければならないため、体調の悪い来園者の対応などについて、関連各所の指導内容を調査し、**全社に先駆けて「職員安全マニュアル」を作成しました。このことは、全社統一マニュアル整備の契機にもなりました。**

また、のびのび親子館について、**密を避ける定員制、時間制限、利用者以外の入館制限等適正な利用ルールを設け、周知・運用を図ると共に、昼夕 2 回の職員による床・トイレ清掃・消毒、使用済スリッパ消毒・非接触型体温検知器導入等衛生対策の徹底により、乳幼児の多い施設での感染を未然に防ぎ**、利用者からは多数の感謝が寄せられました。

【密にならずに親子で楽しむクリスマスクラフト】

【毎日昼休み、職員による消毒】

【厳重な入館チェックと、消毒、検温体制】

【定員制で安心して遊べる空間を提供】

新しい公園ライフスタイルに向けた取組～セルフガイドや動画活用

【事業計画 No.3-②-178･180･181、No.3-④-27･32･49･50、No.4-イ-1･2･4･6、No.4-協-2、No.4-自-2･3、評価区分 13･20･22 】

コロナ禍において、密にならない生活様式に沿ったプログラムを開発・活用しました。講師が監修・出演する**親子ストレッチ教室、ウォーキング教室のビデオ等を制作**、また、**四季ごとの花情報パンフレット 6 種、府中野鳥クラブとの協働で**情報満載の**野鳥ガイドブックを作成する等によりセルフガイドツールを充実、それぞれ園内で放映・掲示・配付、HP・YouTube にも掲載して、来園者がコロナ禍でも楽しめる新しい公園利用の形を提供**しました。**樹名板情報を活用したクイズラリーには 715 人、ハロウィンのクイズラリーには 869 人が密になることなく参加し、楽しい体験を待ち望んでいた子どもたちは大喜びで走り回っていました。**

防災活動については、集合型の訓練や普及イベントに代わり、まず地元からの**来園者に改めて防災公園の役割機能を知らせる情報発信**を強化すべく、園内 8 箇所にパネルを新設し、サービスセンターでは**防災トイレ紹介ビデオ**を放映、本社制作の**防災アプリ**も活用しました。

【いざという時の公園の機能を日常から知ることができるよう、休憩所など目の付くところに防災パネルを常設。】

【親子ストレッチビデオ。現場でデジタルサイネージにより上映、HP・YouTube 配信】

【はっぱと木の実のクイズラリー】

戦争の歴史を次世代に～プロペラ調査の推進と普及活動

【事業計画 No.3-②-141、No.4-協-1、評価区分 22･32】

プロペラに関する新発見に伴う調査に協力し、**東京都の報告書作成および展示内容の改装に貢献しました。**報告書を契機に**周辺自治体や研究機関等と協力し、集まった様々な知見を掩体壕やプロペラの見学者への普及活動にも活用しました。**

【リニューアル展示されたプロペラ】

【掩体壕を保存する会との協働 小学校 4 年生の見学会】

根気強い利用適正化～府中市との連携で隣接施設利用者の不適正駐輪排除

【事業計画 No.3-②-110･167・168、評価区分 1 】

公園に隣接する関東村グラウンド（府中市管理）利用者の、公園敷地内への数百台に及ぶ駐輪に、数年来是正を試みてきましたが、**府中市と連携して掲示や利用団体への声がけによる継続的な駐輪禁止措置を取り、混乱なく駐輪の完全排除・利用の適正化**に成功しました。

【対策前】

【対策後】

オリンピックに備える演出を継続～ふるさとの丘整備とおもてなし花壇

【事業計画 No.3-②-122、No.3-③-36･82、評価区分 5･22 】

オリンピック会場の背景となる当公園のビューポイント「ふるさとの丘」のシラカシやボダイジュなどの高木について継続的に整備し、**すべての中高木の手入れが完了、さらにアカマツは 3 年越しの整姿剪定を行い、来園者からは「見違えた」との声を多くいただきました。**また、おもてなし花壇は**ボランティア「ひまわりの会」他 13 名の協力**のもと、オリンピックに向けての春花壇を完成させました。

【ふるさとの丘：2 年前との比較】

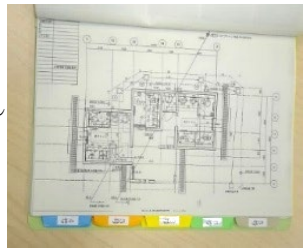
【子どもたちと協働でおもてなし花壇】

日常維持管理に新しい知恵を導入～トイレ管理台帳の整備と重点巡回の新設

【事業計画 No.3-③-25･39･58、評価区分 2】

トイレの設備データ、建物・給排水・電気設備の図面、各パーツの写真情報、掲示物の原稿、修理履歴等を 1 冊にまとめた、トイレ管理台帳を作成・運用しました。これにより、不具合等が起きた際に**迅速な状況把握と初動判断が可能**となり、**日常管理のスピードと正確性が大幅に向上しました。**さらにこれを、**多摩部の各公園と共有し、横展開**しました。

日常巡回点検においては、敷地面積が広く、毎日細部までの点検徹底が難しいため、園内を**4 エリアに分け週 1 回エリアごとに重点巡回を実施、普段発見しづらい不具合を含め、5 か月で約 110 件を発見・対処**し、**点検の効率・精度を飛躍的に高めることに成功しました。**


【管理台帳・図面】

【管理台帳・写真】

【普段と違う視点から外周フェンスやベンチ裏もチェック】

クラスターを回避するための大型遊具やスポーツ施設の運営管理

【事業計画 No.3-②-165、評価区分１・9・20】

東京都の指示の下、公園をクラスターとしないために、ふわふわドームやわんぱく山等の大型遊具、テニスコート等**20種の公園施設（含 売店等）**で、適切な時期に閉鎖・開放、**きめ細かな利用制限と管理**を行い、**感染防止キャンペーン**で利用者への的確な呼びかけと調整を実施。消毒や清掃等による**徹底した感染防止対策**を行いました。

12月には**「手洗い講習会」**を開催し、デジタルサイネージでの啓発動画放映や、**子ども約100人に遊び感覚で正しい手洗いを体験**してもらい、自分でできる予防策を啓発しました。

また、これまで希望者が集合の上で抽選会を行っていた「早朝テニス利用（年12回）」「フリーマーケット（年12回）」「多目的運動広場（年10回）」について、**コロナ禍を機に抽選方法を見直し**、かつ利便性向上を目指すための試行として**代理抽選方式を導入**しました。希望者からは指定期間に事前申込みを受け、信任により職員が抽選を行うことで、利用者間の接触機会を減らしつつ、利用者の拘束時間解消等の利便性向上が図れました。当落報告をFAXや郵送からメール等の活用に切り替えたことで、**スピードアップと効率化も図れ、参加者からは大変好評**を得ています。

【手洗い講習会で感染予防を啓発】

【代理抽選会の様子】

10年前の教訓を今に伝える「防災啓発スタンプラリー」の開催

【事業計画 No.4-自-1・5、評価区分13】

東日本大震災から10年の節目となる3月に**「防災啓発スタンプラリー」**を開催しました。

震災を知らない子供たちをターゲットに設定し、チェックポイントには、消防・警察と連携した**防災情報コーナー**、仙台市を襲った津波とほぼ同じ高さのソリゲレンデでその**大きさを疑似体験**するコーナー、ドッグランには家族の一員である**ペットの防災に関する展示**を設けました。

また、デジタルサイネージでは防災公園グループで制作した**かまどベンチ紹介動画やペット防災動画を放映**しました。そのほか、**10年前の小金井公園の写真と公園職員の体験談の掲示**により、当時の記録と記憶を伝え、日ごろの備えの大切さを感じていただきました。

【各チェックポイントにはアルコールを設置】

いつでも公園を楽しめる散策コース・観察コースの提案

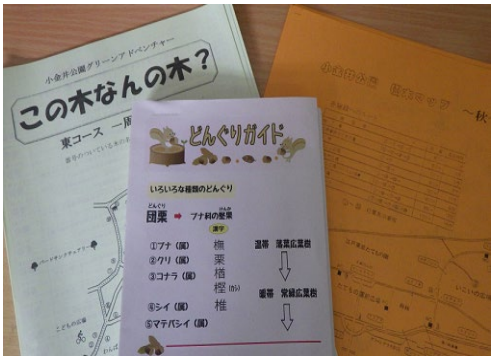
【事業計画 No.3-②-178・3-③-89、評価区分 22・23】

コロナ禍でも公園を楽しむ提案として、**分散利用を促進するセルフガイドツールを充実**し、情報発信を強化しました。

ボランティア団体と連携して**樹木観察を楽しめるグリーンアドベンチャーの新コースを追加設置**し、コースマップを配布して公園でのリフレッシュ体験を促進しました。

ウォーキングを楽しむ方向けには、園内のおすすめコースをＷＥＢで発信し、健康づくり需要に応えました。

さらに、桜花期に特定の場所が密にならないようにするべく、**小金井公園と近隣地域の桜スポットを周遊する花見スタイルを推奨する「桜めぐりマップ」**を作成しました。今年度組織した小金井公園エリアマネジメントアライアンスメンバーに企画段階から参画いただいたほか、市や観光団体、教育機関、他公園の指定管理者等と連携して地域情報を盛り込み、地域振興のためにカフェ等の情報も掲載。完成したマップは駅や市役所、学校など園外 10 施設以上で配布することができ、**行政区を超えた大きな地域連携の輪**を育てました。



【新しい樹木観察コースのご案内】

【公園と周辺の桜スポットを紹介するマップ】

雑木林を活用した生物多様性保全の推進

【事業計画　No.3-③-30、評価区分 6】

バードサンクチュアリの観察環境充実のため、昨年度設置した水場にスロープ設置や下草刈り等の整備改良を加え、小動物が身を隠しやすい場所を発生材を利用して設えました。そして、この水場周辺で生き物が行動する姿を調査するため、昼夜問わず自動記録ができるトレイルカメラを用いた定点撮影を行いました。その結果、鳥類のほか、複数個体のタヌキが夕方を中心に活動している様子が確認できました。

Twitter 等を活用し、来園者向けにバードサンクチュアリ内の生態系についての説明と、**普段は余り目にしない生き物の姿を紹介**したことで、公園をより深く知って頂くきっかけを提供しました。

【トレイルカメラで夜の雑木林の様子を知る】

集中的な施設修繕と機動的な植栽管理の実施

【事業計画 No.3-③-25、評価区分 2】

新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言による外出自粛期間を逆手にとり、普段は利用頻度が高いために作業しづらい遊具やスポーツ施設、駐車場等の **16 施設とその周辺**において、**高木剪定や施設修繕、部材交換、塗装等を集中実施**しました。安全かつ短期間での維持補修を完了し、自粛解除後に来園した利用者からは**「久しぶりに来たらキレイになっていた」**とお褒めの言葉を頂くことができました。

また、**1 年間で 38 日間の直営高所作業**を実施し、剪定や枯れ枝除去、ナラ枯れ対策等を機動的に展開することで、**安全で快適な公園空間維持**に大きく寄与しました。

【弓道場フェンス付近での高所作業】

さらなる生物多様性の取り組みを地域へ普及

【事業計画 No.3－②－134・164、No.3－③-30、評価区分 6、22】

今年度のバタフライガーデンの取組みでは、食草であるウマノスズクサを大きく成長させたことにより、**初めてジャコウアゲハが産卵**、幼虫は 60 匹以上になりました。成長を観察するとともに、幼虫・蛹を虫かごに入れ**サービスセンター窓口での展示**を行い、蛹から成虫になる**羽化シーンは定点カメラでの撮影**に成功、**デジタルサイネージを活用して情報発信**しました。**多数のお客様が夢中で鑑賞し、生き物の生態に触れ合いながら学ぶ機会を提供**できました。

【ジャコウアゲハの卵】

【ジャコウアゲハの幼虫】

一方、協会内での事業周知や知識の醸成を図ることを目的とした生物多様性研修を、**センター職員が講師**となりバードサンクチュアリ、バタフライガーデン、

【幼虫・蛹を鑑賞するお客様】

【ジャコウアゲハの羽化の様子は、デジタルサイネージも活用して放映】

東樹林の生物多様性保全についての取組を紹介することで、**各公園での保全活動の実施・促進に向けた情報提供**を行い、吸蜜植物、食草の苗、種の配布など**保全活動の広がり**へのきっかけづくりとすることができました。

【高校生による林床管理「落葉掻き」】

【ゲストティーチャーとして小学校 4 クラスで授業を行う】

その他の取組では、**職員が近隣小校や高校に赴き、生物多様性保全や現在の活動についての取り組み意義を伝え、実際に公園内での花植えや清掃などの活動を通じて、参加意識の向上と作業のやりがいを高め、公園の生物多様性への理解が深まり、地域との連携の強化にも繋がりました。**

工夫をこらした新しい形のイベント展開

【事業計画 No.3－②－135・191・206、評価区分 20】

コロナ禍で、お客様が密にならないよう**動画配信やセルフガイドシートの開発など、イベントに新たな方法を取り入れ**、感染防止はもちろん、参加者の満足度向上につながりました。

どんぐり工作は、セルフガイドシートを用いて、どんぐりにいろいろな種類があることを知ってもらった上で、園内を少人数で探検、材料を探してきてもらいました。生け花教室は、講師の先生のアドバイスの下、実際の講座ではなかなか見えづらい手元を写すなど、動画ならではの視点で撮影。どんぐり工作や、生け花教室は、センター前に設置したデジタルサイネージや YouTube の協会チャンネルでも幅広く発信しました。ご自宅で、好きな時に、好きな花や材料を用いて楽しめ、公園の新たなファンを増やす取り組みとなりました。

【セルフガイドシート「どんぐりを見つけよう！」「はっぱを見つけよう！」】

【アニメも取り入れたどんぐり工作動画は、子どもたちに大人気。】

【公園を背景にすることで、公園の魅力も伝えました。】

【YouTube も含め、10 日間で約 200 件の閲覧がありました。】

【小菊盆栽の「菊花展」の期間に合わせることで、相乗効果も狙いました。】

利用者への配慮や状況を見極めた維持作業

【事業計画 No.3－③－25・34、評価区分 14】

遊具広場付近での**自転車による法面走行などの行為が目立つようになったため、安全確保を第一に職員で約 250 株の株物植栽を行い、利用状況の改善を図りました。**

バスケットボール等ができる「いきいき広場」では、**雨天時のコート面の滑りやすさや不陸、排水性の改善を図ることで、雨天後でも支障なく早期に利用できる環境を整え、喜ばれました。**

【法面への株物植栽前】

【植栽により、自然に危険行為を解消】

コロナを吹き飛ばそう　～集まらずに公園に親しむ取り組み～

【事業計画 No.3-②-206、No.4-自-1、評価区分 20 】

コロナ禍においても、定番となっているイベントを楽しんでいただくため、2つの工作教室に代わって材料配布のイベントを実施しました。5月から計画的に準備を開始し、花壇ボランティアが製作したドライフラワーなどに加え、職員が園内収集したどんぐりやツル類などクリスマスのリースに使える材料を種類ごとに分け、見本品を展示。参加者は、見本を見ながら希望の材料を紙に記入して窓口職員に手渡すという方式を取り、その筆記具も使用ごとにアルコール消毒を行うなど、**不特定多数の参加者が材料に触れないように工夫**しました。参加者たちは作品見本を参考に、楽しみながら材料を選び、中には**「例年のイベントも良かったけど、この方式のイベントもいいですね。」との声や「頂いた材料で作った作品の写真を持ってきたので、ぜひ飾ってください。」と写真を提供いただくなど、お客様との双方向のコミュニケーションも図れ、大変好評でした。**

【この見本を見て「クリスマスリース」材料を選ぶ】

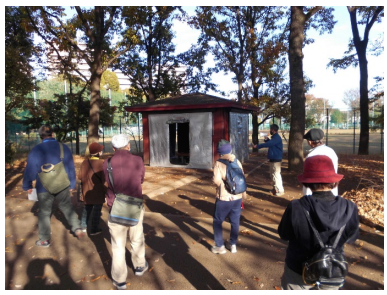
【選んだ材料を受け取り、嬉しそうな参加者】

【参加者から「どんぐり工作」の報告写真が届く】

コロナ禍でも地域と一緒に安全･安心･健康に！

【事業計画 No.3-④-12・53、No.4-協-4、評価区分 13・30 】

コロナ禍でも、万が一に備え、公園の役割を改めて知りたいという地域の声に応え、南街公民館主催の市民企画運営講座において、当園の見学会と、公園の役割説明を行いました。また、**地元消防署も巻き込み、防災あずまや体験や、消火器訓練なども体験**してもらいました。参加者からは、「普段何気なく散歩している公園にこのような機能があるとは知らなかった。」「感染症が心配だったが、ちゃんと対策してもらえていて安心した。」など公園の理解が進む取り組みとなりました。防災施設の案内と共に、**ちょうど見ごろを迎えている紅葉の案内も行い、季節ならではの公園の魅力も知っていただくことができました。**



皆に優しいサービスセンターへ～事務所建て替え工事に伴う多言語･ユニバーサル化対応

【事業計画 №3-③-60、評価区分 32 】

老朽化に伴う建替え工事でサービスセンターが改築される機会を捉え、どの来園者にも優しいサービスセンターを目指すため、**多言語表記や、誰でも立ち寄りやすくなるような仕掛けづくり**を行いました。

ピクトサインを用いた案内看板の設置などに合わせ、**看板への英語併記や、防災用デジタルサイネージのコンテンツを多言語表記にするなどし、皆にやさしい案内を心掛けました。**

また、センター建て替えでは都度、センターの場所が移動しているため、**場所を認識しやすいよう、廃材なども利用した季節飾りを設け、フォトスポットとすることで、センターに立ち寄りやすくしました。**

なお、2 回目の緊急事態宣言に伴うスポーツ施設の休止時は、**引っ越しを控えての利用者連絡となりましたが、約 450 件の連絡を迅速に行い、利用者にご理解をいただくことができました。**

【仮設センターの際は、来園者が近づきやすいよう建替発生材を活用した季節飾りを行い、写真スポットとして楽しんでもらいました。】

【デジタルサイネージを活用して、多言語指差しパネルを紹介。センターの取り組みのご理解にもつなげています。】

【サインや、園内放送の多言語化も進めました。】

公園の変化に敏感に気づき、誰もが安心できる公園維持管理

【事業計画 №3-③-25、評価区分 5 】

コロナウイルス感染症拡大防止に伴う遠方への外出自粛などで、陸上トラックが自由に利用できる当園では、近隣住民や学生などのジョギングや散歩、遠足の需要が増えました。その他来園者の多様な利用方法にも柔軟に対応致しました。今年度は台風の影響が少なかったため、滑りやすいイチョウをはじめ**落葉が例年よりも多く、期間も長期に渡りましたが、陸上トラックや園路、テニスコートとその周辺を中心にほぼ毎日落葉清掃行い、事故防止につなげました。**

また、木製ベンチなどの休憩施設は定期的な点検で、**ベンチ塗装やパーゴラの高圧洗浄、休憩所入口の段差の擦り付けやベンチ足元の不陸修正などこまめな補修を行い、日々快適にご利用いただけるよう取り組みました。**

さらに、運動施設では**野球場内で芝を駆逐する勢いのハマスゲ対策として塩化カルシウムや防草シートを併用した防除の工夫**や、**静音型ブロワーバキュームを用いた早朝落葉清掃など試験的に行いながら、より効率的な作業に向け検討しました。**

【テニスコート沿いの野外卓やベンチは特に利用頻度が高く、定期的な塗装を行い快適にご利用いただける環境を提供しています。】

With コロナのローズフェスタ ～2020 秋のバラ園～

【事業計画 No.3-②-104・122・180・209、No.3-③-86、No.4-自-1、No.4-協-1、評価区分 20・21・22・23】

バラ園を「もっと身近に」「より深く」知っていただく新プログラムでバラ園ファンを増やしました。

その日おすすめのバラを動画配信した**「今日のバラ Twitter」では、近くに寄って見ることのできない花壇内の様々なバラを花の色や形、葉や棘まで、臨場感を大切に紹介しました。**

また、**「みんなのバラアンケート」を行い、来園者が選んだ人気のバラ 3 種を新しくバラ園に補植し、みんなのバラとして親しんで頂いています。**

バラアンケートと、一番人気「ダブルディライト」

なお、春のバラ園の写真を展示し、季節による違いを見ていただく**「フォトスポット」、バラ園のバラを使った「オリジナルポプリ」の製作と販売もボランティアと共に実施。参加者が集中しないよう、プログラムの特性に合わせて開催日や期間を変え、目的に合わせて日を変えて楽しんでいただけるようにしました。**

経験に基づいた手入れによる良好なバラの開花に加え、アプローチの石畳の除草や大理石の石畳、周辺の石造ベンチなどの高圧洗浄も丁寧に行いました。

石畳には、ソーシャルディスタンスの目安としてバラの花のステンシルプリントも施し、また、当園の**バラの解説などを盛り込み、気に入ったバラを撮影しながら楽しむアプリを新規に導入**しコロナ禍でも安心して秋の美しいバラ園をご堪能いただけるよう工夫しました。

バラのアプリ

安心して遊べる芝生広場とバーベキュー広場の提供 ～BBQ 事前予約制の導入～

【事業計画 No.3-②-178、No.3-③-60 評価区分 1・8・21】

新規にバーベキュー受付の Web 化を実施し、これを機に、事前申込制を導入。芝生広場にバーベキュースペースを設定しました。

利用者の混乱が無いよう、案内看板を刷新し 2 基増設。早期に、園内掲示、ホームページ、Twitter 等で周知をし、特に窓口では、**導入前からバーベキュー受付時にチラシ配布と口頭説明を徹底するなど計画的に移行を図りました。苦情やトラブルも無く、春からの本格シーズンに向けての布石ができました。**

何より、**バーベキュー利用とその他のレクリエーション利用とを住み分けしたことで、どちらも安全、快適にご利用いただけるようになりました。**

コロナ禍での体験イベント開催　～コスモスの花摘み＆ダイコン収穫体験~

【事業計画 No.3-②-122・138、No.3-③-36、No.4-イ-7、評価区分　20・22】

中央花壇、ふれあい農園の土づくりや、除草などの維持管理を丁寧に実施し、良好なコスモスの開花、ダイコンの生育ができました。それを活かし、少しでも利用者に楽しいひと時を過ごして頂けるよう、参加者同士の距離の確保や、道具類の消毒など感染症対策を万全にし、**初めてコスモスの花摘み体験**と例年の**ダイコンの収穫体験を実施**しました。自然に触れあいリフレッシュしていただくと同時に、**植物を大切にする心や食育にもつながるような取り組みができました。**

ダイコンが生える姿を初めて見るお子さんも！

公園でも自宅でも、ダブルで楽しむ遊びと工作のプログラム

【事業計画 No.3-②-206、N o.4-自-3、評価区分 23】

参加者が集中しないよう開催日数を増やし、ご自宅で感染の心配をせずに楽しめるよう工夫してイベントを開催しました。

公園では家族で気軽にできるどんぐりや職員手製のサンタ探しのレクリエーション、ご自宅では、園内で見つけたどんぐりに発生材を用いた工作という、連動したプログラムを提案し、楽しんでいただくことができました。

「サンタを作ってくれてありがとう。子どもが喜んでいます」と感謝の気持ちをサービスセンターに伝えに来てくださる方もいらっしゃいました。

サンタを見つけよう！クイズラリー

日々の健康づくりに利用の多い「トリム広場」を安全で快適に整備

【事業計画 No.3-③-25・55、評価区分 2・14】

トリム広場周辺から越境した芝を除去し、土を入れて地盤面を整備しました。**健康遊具の足元は、利用頻度から不陸が目立ち始めていましたが、数カ所あるマンホールと併せて段差を解消し、安全性を確保**しました。**雨後の水たまりの解消と、快適性の向上**で、利用者から好評価を得ました。

工事に伴い、大型車両が出入りすることや、なるべく短期間で終了することを念頭に、**雨季を避けるなど実施時期も工夫し、早期に周知を図るなどしたことで、封鎖の影響も最小限に抑えることができました。**

地域に愛される景観を守るための樹木点検（クビアカツヤカミキリへの対応）

【事業計画 No.3-③-40・87・90、評価区分 4】

都立公園内で初めてクビアカツヤカミキリが発見されました。

東京都や地元市への報告とともに、以降クビアカツヤカミキリの活動時期中、毎日朝の巡回時にサクラの点検を実施。**被害の早期発見と迅速な処置を行い記録を残しました。**特に陸上競技場周囲を取り巻くソメイヨシノは春の公園を代表する景観で、地域の人々の憩いの風景です。点検や薬剤注入が迅速にできるよう根元の環境も整え、関係各所と情報交換を図りながら、被害の拡大防止に努めました。

樹幹注入剤の試行状況